

平成29年度

都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査

「農体験型都市公園を核とした市街地縁辺部における都市・農村共生
まちづくりの実証調査（NPO法人環境文化プロジェクト機構）」

報告書

平成30年3月

国土交通省都市局

報告書目次

第1章 調査の目的	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象地の概要.....	1
3. かなたけの里公園の概要	7
4. 調査の構成と手順.....	11
第2章 地域における都市農業の活動状況及び課題	15
1. 関係主体の整理.....	15
2. 関係主体へのヒアリング	17
3. 地域における都市農業の課題及びニーズの把握.....	37
第3章 都市住民・企業の農業や農体験に対するニーズ把握.....	39
1. かなたけの里公園における農体験の実施状況.....	39
2. 都市住民へのアンケート	46
3. 企業へのヒアリング	60
第4章 市街地縁辺部における農地の活用・保全方策の実証調査.....	69
1. 参加企業の選定.....	69
2. 受け入れ可能な農家の抽出および参加の仕組み検討	70
3. 実証調査の実施.....	73
第5章 都市・農村交流に向けた活用施策の検討及び課題整理.....	84
第6章 都市・農村共生まちづくりの育成手法モデルの検討	86
1. 都市・農村共生まちづくりの育成手法の検討.....	86
2. 総括及び今後の課題.....	98

第1章 調査の目的

1. 調査の目的

一般的に都市部と農村部の境界に位置する市街地縁辺部では、地域振興や土地利用コントロール等の課題を有している。一方で、都市部としての側面を隣り合わせとする立地条件から、今後の都市と農村が連携した、新しいまちづくりの展開を図ることで、農地の多面的機能を持続的に保全・活用していくことが、より期待される地域である。

本業務では、市街地縁辺部に位置する福岡県福岡市西区金武校区において、都市住民及び企業、地域内外における関係主体へのアンケートやヒアリングによる農地の活用ニーズ調査を行い、その結果等を踏まえて、都市部・農村部の交流促進に向けた活用施策の検討や課題の抽出のための実証実験を行う。さらに、農体験型都市公園の果たす役割等を把握し、市民との連携による新たな農の営みの持続可能性・活用可能性について検証するとともに、「都市・農村共生まちづくり」の育成手法モデルとしての事例構築を目的とする。

2. 調査対象地の概要

金武校区は福岡市西区の南部に位置し、東には室見川、西部から南部は飯盛山をはじめとする脊振山系に連なる自然環境豊かな地域で、福岡市の生鮮食料供給地として重要な役割を担っている。福岡市中心部からは車で30分程度の都心部に近い地域で、市街化調整区域として現在も農業を中心とした生業が営まれ、良好な農村景観が保全されている地域である。また、県指定文化財「かゆ占い」や市指定無形民俗文化財「流鏝馬」で有名な飯盛神社、旧三瀬街道（福岡と佐賀をつなぐ江戸時代の主要街道）の面影が残る金武宿、国指定史跡「吉武・高木遺跡」等の歴史資源を有する。

このような恵まれた自然環境や歴史資源を生かして、平成24年には自然や農と直接触れあえる農体験型都市公園「かなたけの里公園」が整備され、また、国指定史跡「吉武・高木遺跡」に歴史公園として「やよいの風公園」が平成25年より一部供用を開始している。また、自然豊かな里山の環境に囲まれながらも、宅地開発や土地区画整理事業での戸建ての住宅建設により地区の人口は増加している。



福岡市西区金武校区周辺

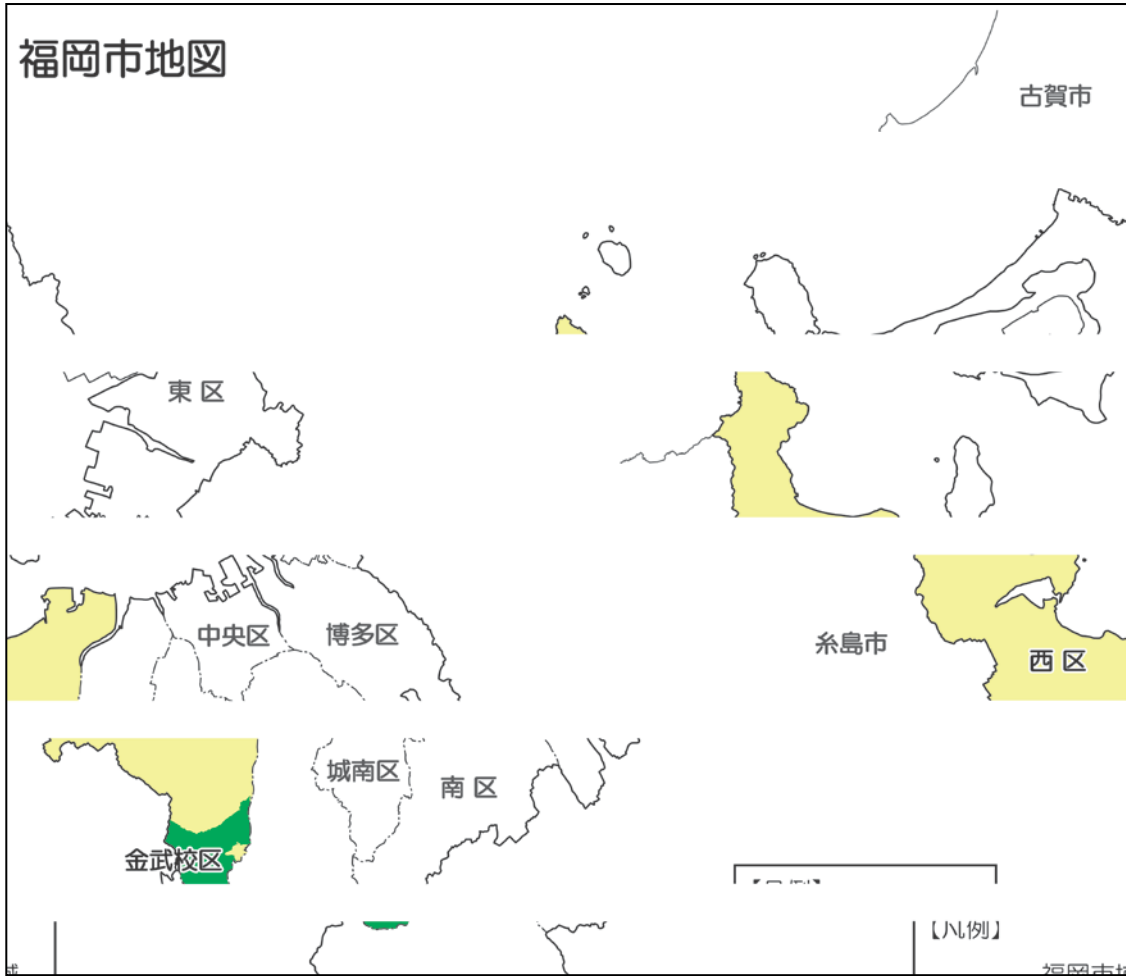


图 1-1 福岡市金武校区位置图



図 1-2 かなたけの里公園位置図 ※福岡市都市計画マスタープラン参考

<人口・世帯数>

平成22年より、人口と世帯数ともに増加傾向となっている。年代別人口割合を見ると、福岡市全体や西区と比べて65歳以上の割合よりも15歳未満の割合が多い。これらは、金武・吉武地域における土地区画整理事業での戸建住宅建設等によって、子育て世代の人口が増加したためである。

しかし、平成29年には、15歳未満の人口数は減少、65歳以上は増加となっているため、今後、金武校区内で高齢化の進行が懸念される。

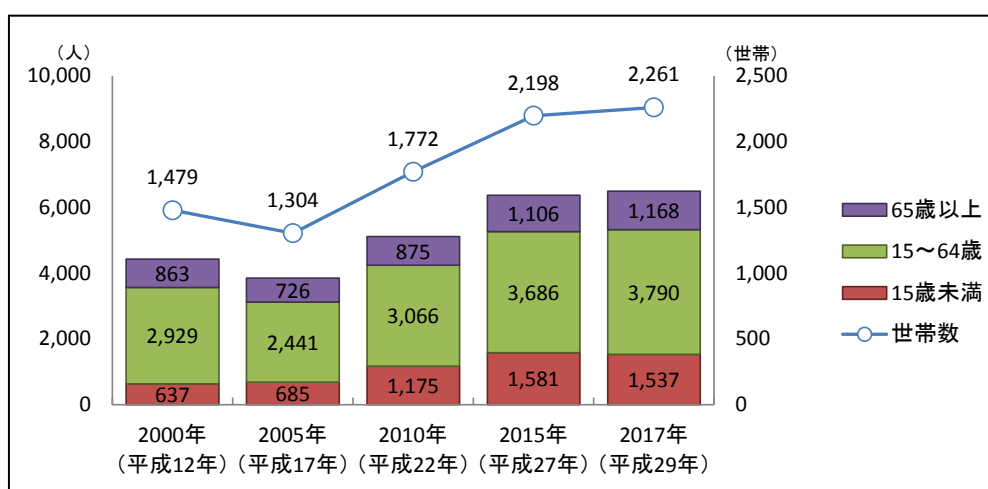


図 1-3 金武校区の人口・世帯数の推移 典拠：福岡市住民基本台帳の校区別人口及び世帯数

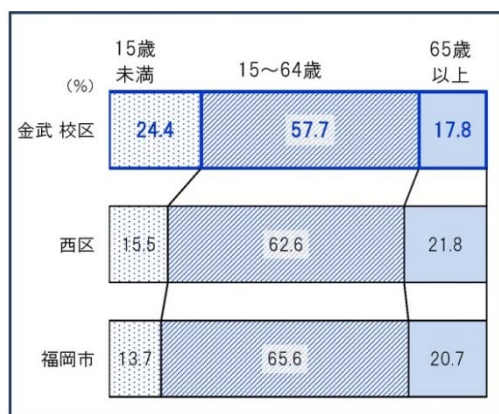


図 1-4 年代別人口割合 (平成28年) 典拠：福岡市西区金武校区データ集

65歳以上のいる世帯数は増えているものの、一般世帯に占める割合は減少しており、6歳未満の子どものいる世帯数及び一般世帯に占める割合は増加している。また、6歳未満の子どものいる世帯割合推移では、福岡市、西区ともに減少傾向となっているが、金武校区では平成12年から年々増加している。

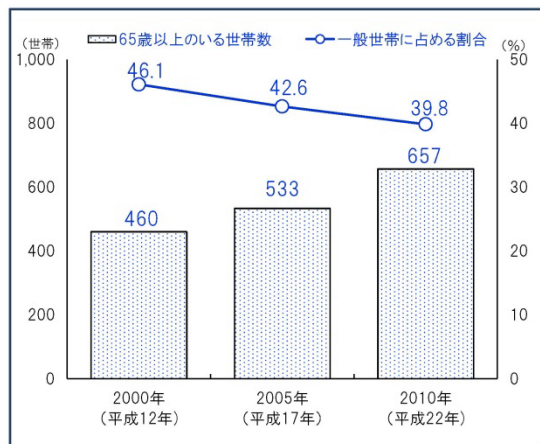


図 1-5 金武校区の高齢者(65歳以上)のいる世帯数

典拠：福岡市西区金武校区データ集

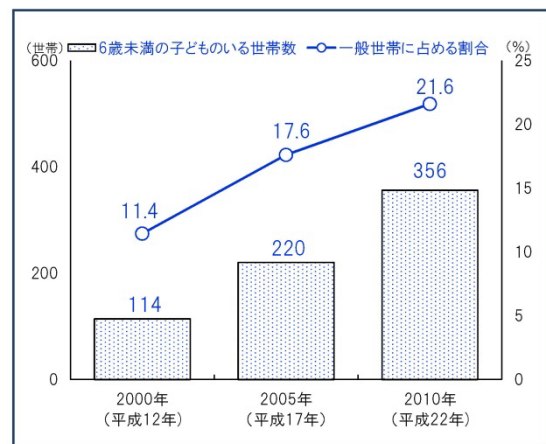


図 1-6 金武校区の6歳未満の子どものいる世帯数

典拠：福岡市西区金武校区データ集

表 1-1 高齢者(65歳以上)のいる世帯割合

(平成22年) 典拠：福岡市西区金武校区データ集

	65歳以上のいる世帯総数	65歳以上のみの世帯	ともに65歳以上夫婦のみ世帯	65歳以上1人暮らし世帯
金武校区	39.8%	13.6%	7.8%	5.5%
西区	29.3%	14.6%	6.9%	7.3%
福岡市	24.6%	14.2%	5.3%	8.5%

表 1-2 6歳未満の子どものいる世帯割合推

典拠：福岡市西区金武校区データ集

	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)
金武校区	11.4%	17.6%	21.6%
西区	13.4%	12.8%	11.8%
福岡市	9.7%	9.2%	8.5%

＜農業の現況＞

福岡市では、「福岡市農林業総合計画（平成 29 年度～平成 33 年度）」に基づき、農林業施策を展開している。計画において「農業所得の向上と都市型農業の多面的機能の発揮」を目標として、「(1) 攻めの都市型農業の推進」、「(2) 農地と良好な農村環境の保全」、「(3) 都市住民と農の共生」の3つを基本的な振興方向として定め、施策を進めているところである。

その中で、金武地域における地域別の振興方向は、地域の担い手による高齢者所有農地等の作業受託体制の構築推進や、人・農地プランの作成による新規就農者や担い手農家への支援体制の整備を推進することをうたっている。また、地域内にある「かなたけの里公園」と連携した青空市の開催や、地元食材を使用した交流会の開催など地域活性化への取組みを支援することが推進されている。ほ場整備事業による農地の集団化が図られており、また、集落地区計画による土地区画整理事業や宅地開発が実施されて、新規住民は増えている。一方で、旧集落部で主に営まれている農業に関しては高齢化と後継者不足の課題を抱えており、平成 22 年と平成 29 年を比較すると、販売農家戸数はおおむね横ばいであるが、専業農家数、農業従事者数、農地面積はいずれも大きく減少している。また、高齢化や農業従事者の減少によって、地域の共有地として共同管理が行われている用排水路や農道の保全管理が困難となっている。

表 1-3 金武の農業・農地の現況

参考資料：福岡市農林業総合計画（平成 28 年度～平成 33 年度）

平成 29 年度の農家の実態調査まとめ

	平成22年	平成27年	平成29年	平成 29年／平成22年
販売農家戸数(戸)	145	129	142	97.9%
（うち専業農家）	(46)	(47)	(20)	(43.5%)
農業従事者数(人)	390	328	299	76.6%
農地面積(ha)	260	240	177	68.1%

	平成23年	平成28年	平成28年／平成23年
認定農業者数(経営体)	6	5	83.3%

主要生産物	米、ぶどう、いちご、だいこん、かぶ、 ブロッコリー、かつお菜、枝豆、いちじく
-------	-------------------------------------------

3. かなたけの里公園の概要

先述した高齢化や農業従事者の減少といった課題を有する金武校区では、市街地に隣接する立地条件を活かし、地域産業である農業の振興や地域外からの人たちとの交流の拠点となる公園として、平成24年6月に「かなたけの里公園」が整備された。かなたけの里公園整備にあたっては、基本構想・計画の段階から、地域住民・行政・事業者が一体となって、公園が地域におけるまちづくり活動の拠点として活用され、地域の振興・活性化につながっていくことを目指して協議が重ねられた。

表 1-4 かなたけの里公園整備に関する事業の変遷（福岡市の取組み）

平成 16 年～19 年：事業の構想段階	
年度	事業名
平成 16 年度	金武地域整備基本構想策定業務
平成 17 年度	かなたけの里公園アイデア募集運営業務
平成 19 年度	かなたけの里公園整備地域振興活性化等調査業務
平成 20 年～21 年：計画・設計段階（管理運営内容の検討）	
平成 20 年度	かなたけの里公園運営・管理手法検討・調査業務
平成 21 年度	かなたけの里公園体験活動等実施調査業務
平成 21 年～23 年：設計・整備段階（管理運営の検証の実施）	
平成 21～22 年度	かなたけの里公園を拠点としたまちづくり事業 （福岡市、NPO環境文化プロジェクト機構の共働事業）
平成 24 年～：管理運営段階	
平成 24 年～26 年度	かなたけの里公園指定管理（第 1 期）
平成 27 年～31 年度	かなたけの里公園指定管理（第 2 期）



公園整備に向けた住民ワークショップ



公園予定地での市民参加型農体験の試行

現在は、「かなたけの里公園指定管理業務」の第2期（平成27年度～平成31年度）にあたり、造園系建設業者と建設コンサルタントによる事業共同体「チーム里の環」が指定管理者となり、地域の組織である「かなたけの里公園運営推進委員会」と連携して、公園の管理運を行っている。公園の理念・役割として、「市民が自然や農と直接ふれあえるレクリエーション・リフレッシュの場を創出する」「金武地域の振興・活性化に寄与する」「体験プログラムやイベント展開する参加・体験型の公園とする」といった内容が掲げられており、公園の農地や自然を活用した、市民参加型の体験プログラムの実施や、公園の活動が地域活性化へ寄与することが求められている。来園者数は、開園初年度より順調に増えており、農業体験農園が供用を開始した翌年には6万人を超えた。平成27年には7万人を超えている中で、増加傾向が続いている。

表 1-5 かなたけの里公園の概要

所在地	福岡市西区金武1367番地	公園面積	12.7ha
開園年度	平成24年6月	種別	都市公園（風致公園）
主要施設	畑地、花畑、湿地、果樹園、竹林、芝生広場、管理棟、炊事棟、農機具倉庫等		
公園の理念・役割（かなたけの里公園 指定管理業務仕様書より抜粋）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と農業が守られてきた金武地域の特徴を活かし、市民が自然や農と直接ふれあえるレクリエーション・リフレッシュの場を創出する。 ・ 金武地域の振興・活性化に寄与する。 ・ 農作業体験をはじめとする各種体験プログラムやイベントを展開する参加・体験型の公園とする。 ・ 福岡市民の「里」となる公園を目指す。「里」は、人が自然に働きかけて生まれた空間であり、自然と共にある人々の営みの場である。都市生活を送る市民が、「かなたけの里公園」とその周辺に広がる穏やかな農的環境のなかで、自然や土に触れ、昔から守り伝えられてきた「里」の営みを体験することによって、やすらぎとよろこびを感じ、自然とともにある暮らし・生活スタイルを学び実践する場となることを目指す。 			

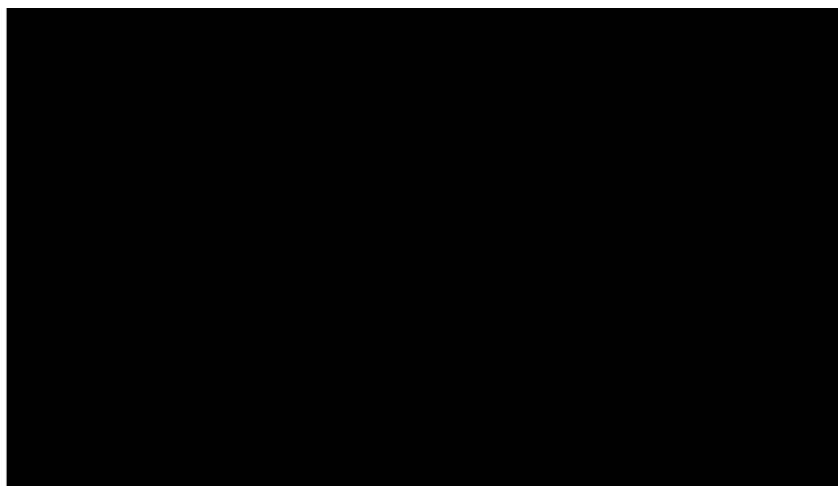


図 1-7 かなたけの里公園の来園者数の変化（H24-28）

表 1-6 かなたけの里公園のイベント一覧

時期	名称	概要
里のお祭り 季節の催事		
・お祭りは事前申込、当日受付の各種イベント、無料炊出し等があります。 ・体験により有料のものもあります。		
5月 初旬	里の春祭り	様々なモノづくりを体験できる春のお祭りです。
10月 中旬	里の収穫祭	ステージなども設置し、里の収穫を味わうことのできる、公園一番のお祭りです。
12月 中旬	金武ふれあい年末祭	正月準備をテーマとして、餅つき等を行います。JA金武支店「ふれあい青空市」との共催です。
1月 初旬	ほうげんぎょう	地域に伝わる伝統行事、ほうげんぎょう（どんと焼き）を行う、地域と共催でのお祭りです。
その他季節の催事		
その他季節を感じる催し物を定期的に開催します。かなりんピック（6月）、七夕祭り（7月）、粟山子づくり大会（9月）、節分祭（2月）、おひなまつり（3月）		
農体験 プログラム		
・収穫したものはお持ち帰りいただけます。（出来高により量を決定します。） ・体験により料金や参加回数が異なります。事前受付があります。		
4月～ 3月	農業体験農園	初めての方でも安心して野菜づくりができる農業体験農園です。指導員のもと、苗の植え付けや種まきから、草取りなどの管理、新鮮野菜の収穫を行う事ができます。種苗・肥料・資材等は全て管理者が用意します。
4月～ 3月	里の暮らし体験	農業体験農園1年経過後の発展型、畑や果樹園、樹林地など公園全体を活用し、より「里の暮らし」を楽しむことのできる体験です。個人畑と共同畑における野菜作りは、環境や景観にも配慮し、よりじっくり学ぶことができます。
4月～ 5月	筍収穫体験	園内のたけのこを収穫・味わう体験です。5月は穂先物を収穫します。
5月～ 10月	ブドウづくり体験	ブドウ（巨峰）の管理作業を行い、収穫を味わい、最後はお礼肥まで行う体験です。
6月～ 11月	米づくり体験（園外）	田植から草取り、収穫、脱穀を行う体験です。
6月～ 7月	麦づくり体験	麦の収穫、製粉、うどん打ちを行う体験です。
7月～ 1月	大豆づくり体験	大豆の種まきから草取り、収穫、脱穀、最後は味噌作りを行う体験です。
8月～ 1月	蕎麦づくり体験	蕎麦の種まきから草取り、収穫、脱穀、最後は蕎麦打ちを行う体験です。
9月 下旬	クリ収穫体験	園内のクリを収穫・味わう体験です。
1月～ 3月	ダイダイ餅づくり体験	園内のダイダイを収穫・餅づくりを行う体験です。
1月～ 3月	ハッサク収穫体験	園内のハッサクを収穫する体験です。
適宜	飛入り収穫体験	各種収穫体験における余剰が出た際の飛び入り収穫体験です。※事前受付不要
自然観察		
・季節ごとの自然を観察します。事前受付があります。体験により有料のものもあります。		
4月 下旬	里山ハイキング	公園を起点として金武の豊かな環境を楽しむハイキングです。
5月 下旬	夜のホタル観察会	ホタルや星空など初夏の夜の公園を歩きながら楽しめます。
7月 下旬	夏の里山観察会	裏の水辺を中心とした生き物観察を行います。
10月 中旬	秋の里山観察会	穀物や野菜、畦の植物、どんぐりなどの観察と草木染めを行います。
11月 中旬	里山清掃登山	秋の飯盛山へ登ります。頂上で食べるお弁当は格別です。
11月 中旬	焚き火系プログラム	公園の剪定枝等で作った薪で、焚き火体験を行います。
2月 中旬	冬の里山観察会	二ホンアカガエルの卵塊を観察・保全活動を行います。
3月 下旬	春の里山観察会	春の野草を観察・採取しながら、最後は試食まで行います。
定期開催 ものづくり教室		
・さまざまな手仕事によるモノづくり教室を定期開催しています。 ・体験により料金や参加回数が異なります。事前受付があります。		
毎週土曜	竹クラフト教室	公園の竹を活用したクラフト教室。（無料・当日申込）
第1・3水・日曜	竹工芸教室	竹ひごづくりから籠づくりなどを行います。
第2・3火曜	布ぞうりづくり教室	使わなくなった布を用いてぞうりを作ります。
第2・3金曜	さげもんづくり教室	女の子の幸せを願う縁起のよい小物「さげもん」を作ります。
第4金曜	野の花観察・茶花教室	園内の植物を利用し、茶花をいける教室です。
第2日曜	ソバ打ち教室	100円ショップで購入可能な道具を使ったソバ打ち体験です。
不定期開催	里山クッキングカフェ	公園の作物を利用して、簡単な料理を作り味わいます。
ボランティア活動		
・16歳以上の方ならどなたでもご参加できます。		
第4土曜	里山ボランティア	みんなで公園の竹林を整備する活動を行います。
その他		
・どなたでもご参加できます。		
随時受付	B B Q利用	園内でB B Qの利用が出来ます。道具のレンタル（有料）もご利用いただけます。



図 1-8 かなたけの里公園園内マップ (典拠：かなたけの里公園パンフレット)

以上より、かなたけの里公園が求められる役割として以下のことを把握した。

①金武校区のまちづくりの拠点となる公園

基本構想段階から、一貫して地域産業である農業の振興や地域内外の交流促進による、地域活性化に寄与する拠点施設となることを目指し、地域・行政・事業者が連携した公園づくりが行われている。

②都市住民が体験を通じて農や自然と触れ合える公園

都市住民のレクリエーション・リフレッシュの場として、参加・体験型のプログラムやイベントの実施が求められており、公園整備段階で施行された市民参加型の農体験が、多様な手法で実施されている。

③地域と連携した管理運営手法の公園

指定管理者が、地域組織である「かなたけの里公園運営推進委員会」と連携しながら、公園の管理運営を行うことで、地域と連携したイベント等が実施されている。

4. 調査の構成と手順

本実証調査の構成及び手順は以下の通りである。

(1) 地域における都市農業の活動状況及び課題の把握（第2章）

地域農家や住民、自治組織をはじめ、地域内に整備された農体験型都市公園「かなたけの里公園」の指定管理者へのヒアリングを実施し、金武校区のまちづくりの方向性、地域における農業の現状や問題、都市住民や企業が地域の農業へ関わることへの期待、新興住宅地における新住民の意識を把握し、調査対象地における市民参加型の農体験や農業に対するニーズや課題を整理する。

調査項目：関係者ヒアリング

①かなたけの里公園の関係主体

- ・指定管理者「チーム里の環」
- ・かなたけの里公園勤務の地域住民
- ・金武校区自治協議会※ かなたけの里公園運営推進委員会

②地域自治組織（公民館、金武校区自治協議会、町内会）

③地域農家代表者

④新興住宅地の地域住民

⑤JA福岡市金武支店・金武農業振興連絡協議会

⑥金武校区自治協議会 子ども育成会

※校区自治協議会制度

福岡市で実施されている、小学校区を単位として、防犯・防災、子ども、環境、福祉などの様々な事柄について協議し、校区を運営する自治組織の制度

(2) 都市住民・企業の農業や農体験に対するニーズ把握（第3章）

対象地域の農地保全に向けた取組みの一つとして考えられる、市民参加型の農体験に関する実証実験を行う上での条件設定のため、都市住民や企業、各種団体等に対して、農業や農体験に対する関心や需要を把握する。企業に関しては、農地を活用した顧客サービスや広報・PR活動、福利厚生、飲食店の商品開発、レクリエーション等の事業展開に関する可能性を把握する。また、かなたけの里公園の農体験の経験者や集客イベント来園者に対して、公園外の周辺農地における農業体験や農業支援等に関するニーズ把握を行う。

調査項目：農体験の実施状況の調査、都市住民向けアンケート、企業ヒアリング

①かなたけの里公園における農体験の実施状況の調査

②都市住民向けアンケート

- ・農体験経験者アンケート
- ・一般アンケート

③企業ヒアリング

(3) 市街地縁辺部における農地の活用・保全方策の実証調査（第4章）

対象地域において、企業・市民参加による農体験の実証調査を実施し、その成果を活動量として定量的に捉え、地域の農業支援活動としての有用性を検証する。実施にあたり、地域の組織や行政と連携し、受け入れ可能な農家の抽出及び意見交換会を通じた企画立案を行う。

①市民参加の受け入れ可能な農家の抽出と仕組み検討

地域組織等と連携し、受け入れ可能な農家を抽出した上で、意見交換会を実施し、農体験の企画立案を行う。

②企業及び都市住民における農地活用へのニーズ把握

企業：企業や団体による福利厚生や顧客サービス、余暇活動等としての農体験を実施し、効果的な取組手法と農地・農業への具体的効果の検証を行う。

都市住民：企業や団体等の農体験の参加者に対し、アンケートや具体的効果の検証を行い、対象地域の農地を活用した市民参加型の農体験の課題と可能性を把握する。

調査項目：対象農地の選定、実証調査としての農体験実施

①地域農家との調整、対象農地の選定

②農体験実証調査（収穫体験型、栽培体験型）

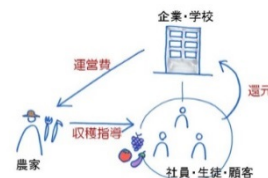
実証調査に向けて想定される農体験参加手法について

■収穫体験

農家の指導のもと、作物や果物などの収穫のみを体験するもの。

想定される企業参加形態のイメージ

- ・ 近隣店舗がリピーター獲得のため収穫体験のサービス提供
- ・ 企業の福利厚生としての収穫体験
- ・ 農機具やアウトドア関連企業が自社 PR をかねたサービス提供
- ・ 市民のレクリエーションとしての収穫体験

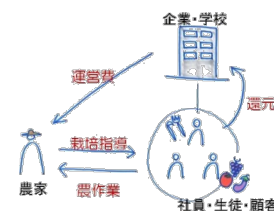


■栽培体験

農家の指導のもと、播種・苗植えから水やり等の管理、収穫までの一連の作業を行うもの。

想定される企業参加形態のイメージ

- ・ 中長期的な栽培体験による社員研修
- ・ 教育機関と連携した食育の栽培体験
- ・ 大学による研究フィールドとしての活用
- ・ 企業の福利厚生としての栽培体験



(4) 都市・農村交流に向けた活用施策の検討及び課題整理（第5章）

(1) 及び(2)で把握したニーズ及び課題、(3)で実施した農体験の実証調査の成果を踏まえて、地域農家、企業、参加者それぞれの参加形態や意見を総括し、それぞれの課題の整理と、活用施策としての設定を行う。

(5) 都市・農村共生まちづくりの育成手法モデルの検討（第6章）

これまでの取組みの成果をもとに、公園を拠点とした市街地縁辺部における市民参加型の農業や農体験の推進方策について取りまとめを行う。さらに、推進方策を継続的に実施するため、都市住民や企業、地域住民等の連携における役割や取組みの成果指標を設定、評価・分析し、都市・農村共生まちづくりの育成手法モデルの検討を行う。取りまとめにあたっては、全国の類似の課題を抱える地域において、新しい営農形態の確立や、都市・農村の交流による農業及び住環境の向上へ発展する一助となるよう留意する。

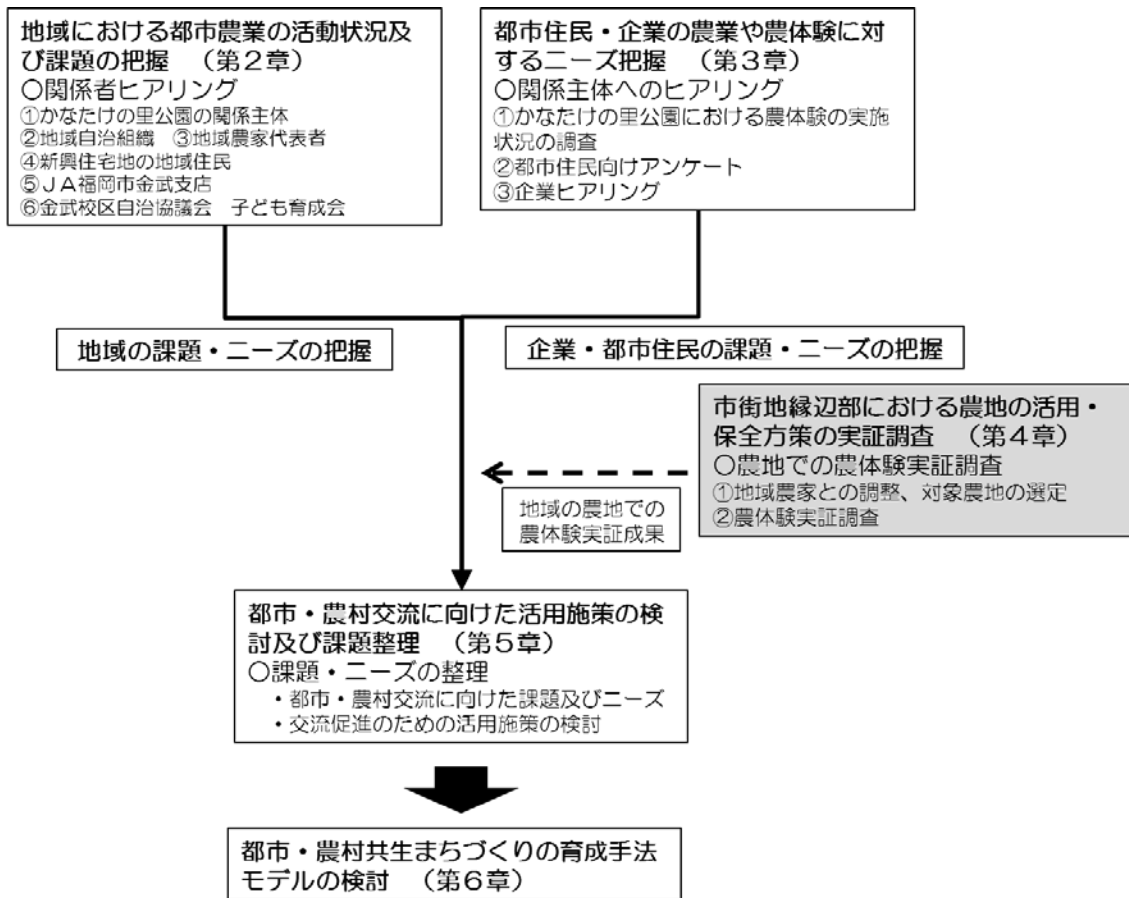


図 1-8 実証調査の流れ

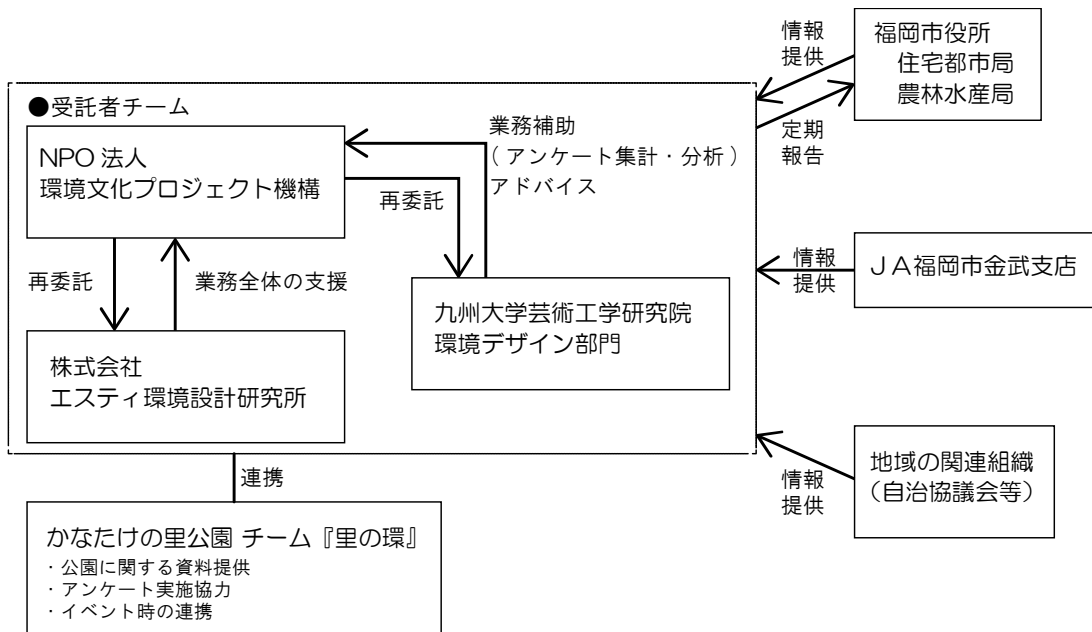


図 1-9 実施体制

第2章 地域における都市農業の活動状況及び課題

本章では、地域における農家や自治組織をはじめ、地域内に整備された農体験型都市公園「かなたけの里公園」の指定管理者等へのヒアリングを実施し、地域における農業の現状や、公園を拠点とした都市住民や、企業と地域の農業との関係について把握し、調査対象地における市民参加型の農体験や農業に対するニーズや課題を整理する。

1. 関係主体の整理

福岡市では、小学校区を単位として、防犯・防災、子ども、環境、福祉などの様々な事柄について協議し、校区を運営する自治組織である「自治協議会」が設立されている。そこで、本調査におけるヒアリングは、金武校区の地域自治組織として自治協議会、公民館、金武町内会を対象とした。そして、地域農家の代表者として、かなたけの里公園周辺の8組合代表者及びJA福岡市金武支店へのヒアリングを実施した。さらに、かなたけの里公園の管理運営に関わる組織として、指定管理者である「チーム里の環」、指定管理者と連携を図る地域組織として「かなたけの里公園運営推進委員会」（自治協議会内組織）、かなたけの里公園に勤務する地域住民を対象とした。このほかに、金武校区内の新興住宅地の組合代表者、地域の教育活動に関わる子ども育成会にもヒアリングを行った。ヒアリングの実施日程は、地域農家が繁忙期を終えた、11月以降で調整した。

表 2-1 ヒアリング対象者一覧表

対象者		日時
かなたけの里公園指定管理者 チーム里の環		7月26日(水) 11月22日(水)
地域自治組織	公民館	11月23日(木)
	校区自治協議会	
	町内会	
かなたけの里公園周辺 8組合ごとの農家代表者	古々森(こごもり)地区	12月4日(月)
	西山(にしやま)地区	
	妙見崎(みょうけんざき)地区	
	丸(まる)地区	
	建野(たての)地区	
	乙石(おといし)地区	
	都地(とぢ)地区	
大原(おおばる)地区		
JA福岡市 金武支店	支店長 総合相談係長	12月14日(木)
	金武農業振興連絡協議会	
かなたけの里公園近隣 住民(新興住宅地)	星の里	1月20日(土)
かなたけの里公園に勤務する地域住民		2月6日(火)
校区自治協議会 子ども育成会		2月22日(木)

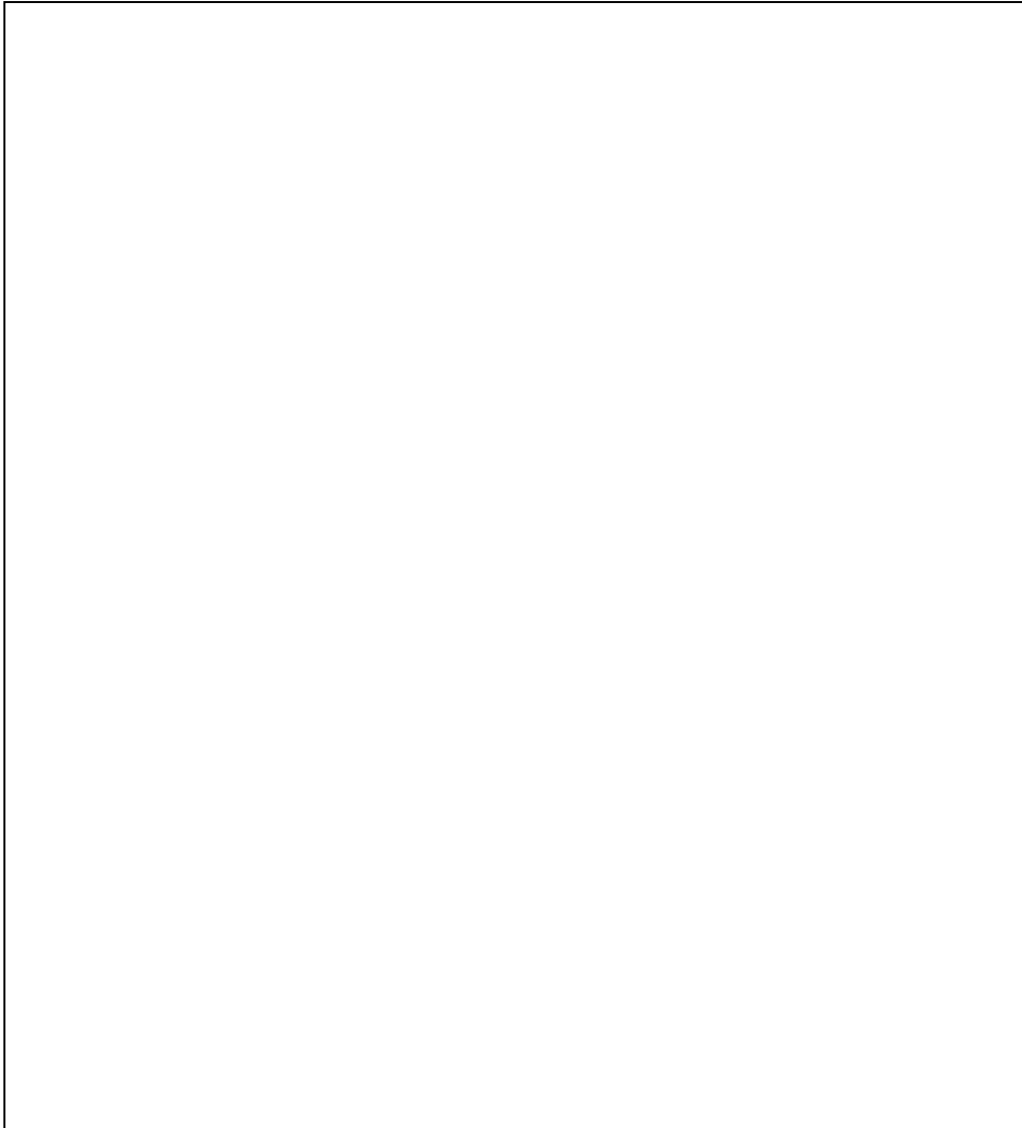


図 2-1 かなたけの里公園周辺の 8 つの組合及び星の里団地
※城田は田畑・樹林地のみ

2. 関係主体へのヒアリング

本調査は金武校区を対象に、以下のヒアリング内容をもとに、地域における農やまちづくりに関するニーズや課題を把握した。

【ヒアリング調査の内容】

(1) 現状と課題について

金武校区における農やまちづくりの現状と課題を把握するために、以下の4項目を確認する。

- ・地域の農やまちづくりの活動や取組み
- ・地域の農やまちづくりについて不安なことなど
- ・地域の農やまちづくりで、重要なこと
- ・地域の農やまちづくりの担い手の確保・育成に関して

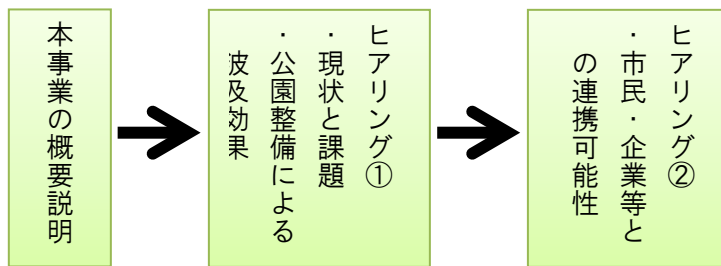
(2) かなたけの里公園整備による波及効果について

金武校区にかなたけの里公園が整備されたことによる、地域の農やまちづくりへの影響や変化に関して確認を行う。

(3) 都市住民や企業との連携の可能性について

都市部（都市住民や企業・団体等）と農村部（金武校区の農業に携わる者）との連携において、具体的にどのようなことができるといいのか、それに対して企業やかなたけの里公園に期待すること、また地域や農家にできることについてヒアリングを行う。

【ヒアリング調査の流れ】



ヒアリングの状況

●かなたけの里公園指定管理者へのヒアリング

かなたけの里公園指定管理者を対象に実施したヒアリング結果の詳細について、以下に示す。

<p>【日時】 平成 29 年 7 月 26 日（水） 15 時 00 分～16 時 00 分 11 月 22 日（水） 15 時 00 分～16 時 00 分</p> <p>【参加者】 かなたけの里公園：所長 坂口善雄氏、副所長 石川雄氏、 スタッフリーダー 高島泰介氏 現場スタッフ班長 結城九州男氏、 現場スタッフ副班長 坂本義臣氏</p> <p>【場所】 かなたけの里公園 研修室</p>



ヒアリングの状況

表 2-2 都市住民や企業との連携可能性（かなたけの里公園指定管理者へのヒアリング結果）

農や地域の活性化に向けて「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に期待すること	地域や農家にできること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域農家が主体となった本物の農地での農体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農体験に関する指導マニュアルやノウハウの提供 ・ 福利厚生などの企業活動による農体験への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や校区外の住民を受け入れる農地や指導する人材の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農作物のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協働での農作物のブランド化や高付加価値化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業等の外部団体による公園及び地域資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かなたけの里公園、地域と連携したイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農作物等の地域資源の提供

＜かなたけの里公園指定管理者へのヒアリング結果＞

1. 現状と課題について

地域の農やまちづくりに関して
<ul style="list-style-type: none">・地域と協働での農体験を実施したいが、地域組織との連携体制がまだ整っていない（受け皿となる組織がない）・体験への応募に対して申込み数が多く機会損失が発生している・かなたけの里公園のお祭りで、地域店舗による地域特産品の販売や農家による野菜の直接販売（トラック市の開催）を行っている

2. かなたけの里公園整備による波及効果について

かなたけの里公園が整備される前と後ではどのように変わりましたか
<ul style="list-style-type: none">・公園の維持管理作業員や農体験指導員、清掃作業員として、地域住民の雇用が創出できた・お祭り等の集客イベント時に地域の農作物の消費に貢献できた・地域の行事を地域の関係組織と連携して行っており、これらの催しの継続や活性化に寄与している・子ども達の遊び場や環境学習の場として使われている

3. 市民・企業等との連携の可能性について

1) 農の活性に向けて「できるといいこと」
<ul style="list-style-type: none">・地域農家が主体となった、本物の農地での農体験の実施・地域の農作物のブランド化・民間企業等の外部団体による公園や地域資源を活用したイベントの開催
2) 企業（かなたけの里公園を含む）にしてほしいこと、期待すること
<ul style="list-style-type: none">・農体験に関する指導マニュアルやノウハウの提供・地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力・かなたけの里公園や地域と連携したイベントの実施
3) 地域（自分たち）にできること
<ul style="list-style-type: none">・企業や校区外の住民を受け入れる農地の提供・地域協働での農作物のブランド化や高付加価値化・農作物等の地域資源の提供

●地域の自治組織へのヒアリング

地域の自治組織及び公民館を対象に実施した聞き取り調査結果の詳細内容について、以下に示す。

<p>【日時】 平成 29 年 11 月 23 日（木）14 時 00 分～16 時 15 分</p> <p>【参加者】 金武公民館 館長 三角守人氏 自治協議会 会長 藤内寛幸氏、副会長兼会計 清末芳信氏、 事務局長 佐藤良博氏 金武町内会 会長 典略徳信氏、副会長兼会計 石橋基次郎氏、 土木水利委員 牛尾利隆氏</p> <p>【場所】 かなたけの里公園 研修室</p>



ヒアリングの状況

表 2-3 都市住民や企業との連携可能性（地域の自治組織へのヒアリング結果）

農や地域の活性化に向けて 「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に 期待すること	地域や農家に できること
<ul style="list-style-type: none"> 地域の農作物の直売所の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 販売場所の提供 農家が卸した作物の販売 	<ul style="list-style-type: none"> 余剰分や小規模な農地での作物提供
<ul style="list-style-type: none"> 地域農家が主体となった本物の農地での農体験 	<ul style="list-style-type: none"> 農体験の指導マニュアルやノウハウの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 受入れ可能な農地の提供 指導する人材の提供
<ul style="list-style-type: none"> 規格外の地域の農作物の消費 	<ul style="list-style-type: none"> 販売場所の提供 農家が卸した作物の販売 	<ul style="list-style-type: none"> 規格外野菜の提供
<ul style="list-style-type: none"> 公園周辺の竹林での筍収穫体験 	<ul style="list-style-type: none"> 体験参加希望者の紹介 ボランティア等による間伐作業 	<ul style="list-style-type: none"> 受入れ可能な竹林の提供
<ul style="list-style-type: none"> 地域の農作物のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力 	<ul style="list-style-type: none"> イベント等で好評であった農作物のブランド化 農作物に関する地域の意見統一

<地域の自治組織へのヒアリング結果>

1. 現状と課題について

地域の農やまちづくりに関して
<ul style="list-style-type: none">・稲作では、台風対策による早期栽培が数年前より行われている・ブドウ農家は、高齢化が進んでおり、規模拡大することが難しい・金武校区の主な農作物に「カブ、ダイコン、シュンギク、ミズナ、ナス、トマト、キュウリ」がある。この中で、カブやダイコンは、市場に卸せない規格外のものが発生しやすい・営農者が高齢化しているため、共有地の草刈といった、共同作業にかかる人数が減少している・飼料米づくりへの補助金があるため、今後、主食用米をつくる農家が減る可能性がある・公園の外で活動を行う場合、そこを管理する組織や個人を設定する必要がある・個人による貸し農園は十分な収入になっておらず、周辺の草刈などの管理をどうするかといった課題がある・『高齢者だから』というくくりをせず、高齢者にも活動ができる場を設けることが必要。誰もが働ける場の環境づくりがまず必要である・隣接地域の中で、貸し農園をしてみたいという声をいくつか聞いている・農業の集団営農(持ち株制度などによる企業化)等が行われないと、農業の継続は難しい・住民が増えることや地域外の人が来訪することで交流が増え、地域の活性化につながることは良いが、治安の悪化や、ゴミ問題といった不安もある

2. かなたけの里公園整備による波及効果について

かなたけの里公園が整備される前と後ではどのように変わりましたか
<ul style="list-style-type: none">・地域の高齢者の職場やボランティア活動の場となっている・公民館や小中学校、幼稚園・保育園等の活動の場が生まれた・かなたけの里公園は、農体験や教育機関等との連携による取組み等が既に行われている。今後は、より多くの人々が利用できる場となってほしい・公園周辺の農地でも、地域農家が協力して収穫体験ができるようになり始めている

3. 市民・企業等との連携の可能性について

1) 農の活性に向けて「できるといいこと」
<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者の活動の場となると良い・ 漬物などの加工品や、料理教室等を通じた規格外野菜の消費・ 栽培品種や方法、肥料や使用資材等の自由度が高い貸し農園・ 駅を起点とした、レンタサイクルなどで金武校区をめぐるサイクリングロードの整備・ 持ち株制度での農家の企業化・ 管理ができていない竹林を活用した地域でのタケノコ収穫体験・ 労働組合のレクリエーション等の企業の福利厚生として利用される貸し農園・ 地域のイベントでも好評である、金武校区のお米のブランド化・ 地元農作物を使ったレストラン等を通じて、野菜の使い方や加工法等を伝えることで、地域のファンが増えてほしい
2) 企業（かなたけの里公園を含む）にしてほしいこと、期待すること
<ul style="list-style-type: none">・ かなたけの里公園に『道の駅』の様な役割を担ってほしい(小さな自家栽培などで作った野菜を持ち込み、販売できる場をかなたけの里公園に欲しい)・ 企業等との連携における、窓口としての役割を公園に担ってほしい・ 指導付き農園を運営するには、自分だけで指導することが難しいので、公園にノウハウを提供してほしい・ 竹林の管理には、ボランティア等の外部からの人員が必要となる
3) 地域（自分たち）にできること
<ul style="list-style-type: none">・ 自由な栽培ができる農地の提供・ 漬け物づくり等を教える場合の講師となる人材の提供・ 将来的に野菜づくりのノウハウを得ることができれば、指導付き農園の講師を提供することができる

●地域の農業従事者へのヒアリング

地域の農業従事者を対象に実施した聞き取り調査結果の詳細内容について、以下に示す。

<p>【日時】 平成 29 年 12 月 4 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分</p> <p>【参加者】 金武町内における 8 組合毎の農家代表者 牛尾和彦氏、結城九州男氏、牛尾耕治氏、山口清一氏、 鍋山伊昭氏、山北一正氏、鍋山正行氏、若狭勝征氏、 牛尾成正氏</p> <p>【場所】 かなたけの里公園 研修室</p>



ヒアリングの状況

表 2-4 都市住民や企業との連携可能性（地域の農業従事者へのヒアリング結果）

農や地域の活性に向けて 「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に 期待すること	地域や農家に できること
<ul style="list-style-type: none"> ・地域農家が主体となった本物の農地での農体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園来園者への、農体験受入れが可能な農家の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入れが可能な農家や農地の情報が共有できる仕組みづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農家の意思の統一や共有、商標登録等
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物の直売所の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売場所の提供と広報、PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAと協力した上での、地域の農作物の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・昔の風景の創出とイメージづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組みの計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・風景やイメージの具体化
<ul style="list-style-type: none"> ・自由度の高い、指導付き貸し農園の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜づくりの指導ノウハウや指導員の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入れ可能な農家や農地の提供 ・栽培指導の補助（将来的には主体的に実施）
<ul style="list-style-type: none"> ・遊休地を企業や個人が耕作できる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地を活用したい企業や人材と、受入れる地域とのマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入れ可能な農家や農地の提供

<地域の農業従事者へのヒアリング結果>

1. 現状と課題について

地域の農やまちづくりに関して
<ul style="list-style-type: none">・農業の後継者が少ない。後継者は、できれば地域の中から出てきて欲しい・現在、兼業農家が多く、専業農家が少なくなっている・金武校区に新しく住む人に対して、校区の特徴や魅力を伝えていくことが必要・農業の収入は低いうえに、機械等の道具類にかかる費用が高いためどちらにしても農業への担い手確保が難しい・働き手を確保するためには、農業も企業のような給料制等の仕組みをつくり、賃金を上げていくことが必要・新たな地域産業が生まれてほしい・公園が核となって都市住民や企業を呼び込んでほしい・農地の集約や大型化は中山間地域では難しい・専業農家を続けることは難しく、かなたけの里公園が核となって、企業等と連携して農業を支援してほしい・付加価値のある作物（例えばブドウやイチゴなど）を栽培することが必要・米づくりをかなたけの里公園で行っていくことが大切だと思われる・小規模農家への支援が必要・後継者は定年を過ぎないと、地域へは戻ってこない・緑と水が金武の良いところなので、PRしたい・子どもたちに農を知ってもらうためには、体験をさせることが必要

2. かなたけの里公園整備による波及効果について

かなたけの里公園が整備される前と後ではどのように変わりましたか
<ul style="list-style-type: none">・かなたけの里公園の整備によって、都市住民が金武を訪れ、まちの活性やまちづくりにつながっている・地域住民の雇用を生み出している。しかし、住民の雇用や公園の取組みによる、地域の活性化を継続していくことが重要な課題である・かなたけの里公園ができたことで「金武」という名を多くの人に知ってもらえた・人とのふれあいや収穫の喜びを知ってもらう機会となっている・イベントの開催により、地元農作物の販路拡大につながっている・かなたけの里公園で、地域住民が持ってきた農作物を販売できるようになると良い・かなたけの里公園を拠点として、周辺地域も人が訪れるようになってほしい

3. 市民・企業等との連携の可能性について

1) 農の活性に向けて「できるといいこと」
<ul style="list-style-type: none">・公園の一部で、地域農家が作った農作物を売る・金武の農作物（お米、ダイコン・カブ、ブドウ・イチジクなど）のブランド化・地域の特徴がわかるような商標登録等を行って、販売用の包装紙等に使いたい・花のある風景づくりができると良い（以前は、菜の花畑が広がり、ミツバチが飛んでいてはちみつが取れるような風景だった）・いくつかの農家同士で農機具類の共用ができるとよい・昔ながらの風景の保全が必要・地域農家が運営する農体験を行っている場所を、公園が紹介する仕組みづくり・昔ながらの手法による米づくり体験ができるとよい・子どもや近隣の新住民に対する、金武野菜・米のPR・農家と消費者との直接的な関わりができる場、仕組みが必要・公園に道の駅のような役割を担ってほしい・公園で定期市として野菜販売ができるとよい・公園でできない品種の野菜を栽培する農体験が金武校区の農地でできるとよい・遊休地を企業や個人が耕作できる仕組みづくり・子どもと一緒に楽しめる農体験や、昔ながらの遊びができる場所がもっと増えてほしい・高齢者が活躍できる仕組み
2) 企業（かなたけの里公園を含む）にしてほしいこと、期待すること
<ul style="list-style-type: none">・農作物のブランド化等を目指す場合に、商標登録などの手続きが分からないので、かなたけの里公園もしくは、企業にノウハウを提供してほしい・かなたけの里公園の農体験に落選した人へ農体験を行っている農家の紹介をしてほしい・昔ながらの手法による米づくり体験の場をかなたけの里公園で行えるようにしてほしい・金武校区のPRもかねて、道の駅のような直売所を公園に設置してほしい・JAを主導にして農の組織化を図ってほしい・地域の昔の風景を守り、よいイメージづくりをしていくためのノウハウを提供してほしい・農家と消費者とが直接関わりを持つ仕組みづくり・新興住宅地や新しく金武に住んでいる住民や子どもに、もっと金武の野菜や米を知ってほしいので、かなたけの里公園やその他で農体験に参加できるようにしてほしい。また、体験イベント内において野菜や米などが販売できるようにしてほしい・農体験を行う際の、参加者への指導ノウハウの提供・遊休地を活用した企業や個人による農体験・遊休地を借りたい人と貸したい人のマッチング・子どもと一緒に楽しめる農体験の場所や、昔ながらの遊び道具・場所の提供

3) 地域（自分たち）にできること

- ・金武の昔の風景やイメージの具体化
- ・農体験の受け入れが可能な農地情報の共有や管理
- ・JAと協力した、地域の農作物の提供や販売
- ・農体験の受け入れができる農家や農地の情報を整理・登録する仕組みづくり
- ・地域の野菜や米を提供することや、農体験の指導を行う農家の提供。また、取組みに関わるための地域農家の意思統一
- ・昔ながらの遊び方（竹馬や竹トンボ、コマなど）を教える人材の提供

● J A 福岡市金武支店及び関係者へのヒアリング

J A 福岡市金武支店及び関係者を対象に実施した聞き取り調査結果の詳細内容について、以下に示す。

<p>【日時】 平成 29 年 12 月 14 日（木）17 時 00 分～18 時 00 分</p> <p>【参加者】 金武農業振興連絡協議会：牛尾光隆氏、山田守氏、 大内弘明氏、清水源義氏、 菰田幸弘氏</p> <p>JA 金武支店：支店長 板屋伸洋氏、 総合相談係長 下司武史氏、 金融係長 宇都宮マミ氏、牛尾守昭氏、 伊佐裕一氏、高橋伸明氏、高木麻里氏</p> <p>【場所】 J A 福岡市金武支店 会議室</p>



ヒアリングの状況

表 2-5 都市住民や企業との連携可能性（地域の農業従事者へのヒアリング結果）

農や地域の活性に向けて 「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に 期待すること	地域や農家に できること
<ul style="list-style-type: none"> ・農地で収穫した野菜を使った料理教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の開催場所の提供 ・指導者の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物や収穫する農地の提供
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物のPR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等を通じた広報・PR活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物のブランド化や高付加価値化
<ul style="list-style-type: none"> ・公園を拠点とした、金武校区を1日中楽しめる取組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営管理 ・取組みに参加する関係者の調整 ・広報、PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・農体験の受入れが可能な人材や農地の情報管理及び共有
<ul style="list-style-type: none"> ・金武校区全体での収穫祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営管理 ・取組みに参加する関係者の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売する農作物の提供

< J A 金武支店及び関係者へのヒアリング結果 >

1. 現状と課題について

地域の農やまちづくりに関して
<p>※第1回金武農業振興連絡協議会委員会資料(金武地区農業ビジョン(平成 27 年度策定))より抜粋</p> <ul style="list-style-type: none">・環境省の生き物調査で多くの生き物が確認され、農村には多くの史跡が残されており、圃場整備による優良農地も所有している・基盤整備に伴う住宅開発やかなたけの里公園・吉武遺跡公園の開園と環境が大きく変化している・水稻・ブドウ・大根・カブを中心とした特産品を有し、直売所施設に対する生産も増えている一方、高齢化が進み遊休地の増加が危惧される・TPP 妥結による農業転換期に対し、組合員が農業者としての熱意と自覚を引き出せるような地域ぐるみの結束が必要であり、活性が望まれる・平成 26 年に金武支店にて実施した「地域基盤作成アンケート」では、10 年後において、規模縮小や離農を考えている農家が多数あり、農業を継続される農家においても水稻作付者では農作業委託希望者が多く、農地維持のためには担い手への農地集積・後継者育成が必要と考えられる・農業ビジョン遂行に向けて、農業推進連絡協議会を立ち上げ、地域活性化に向けた組織づくりが求められている <ul style="list-style-type: none">・福岡産のシュンギクを生で食べる PR をしている・兼業農家や小規模農家などの意見が重要である

2. かなたけの里公園整備による波及効果について

かなたけの里公園が整備される前と後ではどのように変わりましたか
<ul style="list-style-type: none">・イベントを共催することで、地域農家によるトラック市が実施でき、金武の農作物の消費・PRにつながっている・かなたけの里公園に来ている人が増えることで、地域のPRにもなっている・近隣の小学校の催しなどがあるときに、かなたけの里公園の駐車場が利用ができ、学校や地域の取組みを行う際の離合集散の場となっている

3. 市民・企業等との連携の可能性について

1) 農の活性に向けて「できるといいこと」
<ul style="list-style-type: none">・収穫した作物を使った料理教室・地域の農作物（ブドウ等）のPRの継続・拡大・収穫体験や、お米など金武の農作物を味わう体験などを組み合わせた、金武校区を1日中楽しめるプログラム・地区別での作物のブランド化・金武校区全体での収穫祭の開催・一つ一つの体験プログラムや教室などをつなげて長時間（半日コース、1日コースなど）楽しめる取組みの設定・かなたけの里公園の収穫体験後、地域農家の栽培風景（稲作の田植えや稲刈りなど）を巡りながら、その場で農作物の直接注文、売買ができる仕組み・料理教室の需要が多く、金武付近にも料理教室ができる場があるとよい
2) 企業（かなたけの里公園を含む）にしてほしいこと、期待すること
<ul style="list-style-type: none">・収穫した作物を使っでの料理教室ができる場所が必要・マスコミ等を通じた広報やPRを公園や企業に協力してほしい・かなたけの里公園へ収穫体験に来た方に地域のお米を味わえる体験などを付随して1日楽しめるプログラムなどがあるとよい。また、プログラムの企画や運営を行ってほしい・特定地域の作物をブランド化にすることを、公園や企業と連携して行えるとよい・金武校区全体での、収穫祭の企画を検討してほしい・かなたけの里公園で行われている体験や教室、金武校区で行われている体験などをめぐりながら長時間楽しめるためのプログラムづくり及び関係者の調整
3) 地域（自分たち）にできること
<ul style="list-style-type: none">・料理教室を行う際の収穫する農地や作物の提供・1日楽しめるプログラムが体験できる場所や作物の提供はできる・特定地域での作物のブランド化や高付加価値化・金武校区全体の収穫祭のための作物の提供・農体験の受入れが可能な農家の登録

●かなたけの里公園近隣の新興住宅地居住者へのヒアリング

かなたけの里公園の近隣の新興住宅地居住者を対象に実施した聞き取り調査結果の詳細内容について、以下に示す。本ヒアリングに関しては、生活の場所としたきっかけとなった金武校区の魅力、農業や農体験への関わり、かなたけの里公園への関わり、企業が地域な農と関わる可能性に関して、確認した。

<p>【日時】 平成 30 年 1 月 20 日（土）13 時 00 分～14 時 00 分</p> <p>【参加者】 星の里（かなたけの里公園近隣の振興住宅地）の組合長及び 班長 2 名 組合長 吉田正行氏、尾崎賢氏、高井和樹氏</p> <p>【場所】 かなたけの里公園 研修室</p>



ヒアリングの状況

表 2-6 都市住民や企業との連携可能性（新興住宅地居住者へのヒアリング結果）

農や地域の活性に向けて 「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に 期待すること	地域や農家に できること
<ul style="list-style-type: none"> 環境を活かしたアウトドア体験への近隣住民の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な参加を生むための企画メニューの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 住民同士のPRや近隣住民による継続的な参加
<ul style="list-style-type: none"> 近隣住民による地域産野菜の購入 	<ul style="list-style-type: none"> 販売場所の提供、広報・PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> 住民同士のPRや近隣住民による継続的な購入

<かなたけの里公園近隣の新興住宅地居住者のヒアリング結果>

1. 金武校区の魅力について

<p>生活の場所としたきっかけなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡市内でありながら緑豊かな環境のため 自分の出身地の環境に似ているため 交通の便は良いとは言えないが、周辺環境（自然豊かなど）がよい。最近ではバスの本数が増えるなど、交通の便がよくなってきている 市街地に近く、子育てによい環境だと感じた

2. 地域の農への関わりについて

農業や農体験への関わりの有無や魅力

- ・ 祖父母の畑や学校での収穫体験、いちご狩りなどの農体験をしたことがある
- ・ 以前、別の地域で日本酒づくり体験をしたことがある。その体験では田植えから収穫の米づくりを経て、最終的に日本酒をつくった
- ・ 自宅の庭で家庭菜園を行っている
- ・ 近隣に、かなたけの里公園の農業体験農園に参加している住民がいる
- ・ 仕事をしながら、参加頻度の多い農体験を継続的に行うことは難しい
- ・ 子どもの体験への参加意欲が、きっかけとなることが多い
- ・ キャンプやBBQ、宿泊しながらの星の観察などができるとよい
- ・ 地域の農業に直接関わったことは無いが、近隣の店舗で地域の野菜を購入したことがある

3. 生活の中でのかなたけの里公園の役割や魅力について

かなたけの里公園の利用経験や今後の期待等

- ・ かなたけの里公園の原っぱやどんぐり拾いなどして遊んでいる
- ・ かなたけの里公園の研修室等を組合の会合で定期的に利用している
- ・ ほうけんぎょうなどの地域のイベントに参加している
- ・ 5月頃は、公園やその周辺でホタルを観察している
- ・ かなたけの里公園で栽培されたブドウを使って作られたワインのように、ブランド化やそのPRを積極的に進めると良い
- ・ 金武交差点の周辺にブドウの他、クリや地域の農作物などが売られている直売所がもっとあると、購入することも増える
- ・ 『農体験1時間+カブトムシとり1時間体験』などいくつかの体験が一緒になったプログラムがあるとよい

4. 企業・団体等が農と関わる可能性について

・ もし自分が所属する企業が農に関わる活動を行うとしたら、どのような活動内容の可能性がありますか？

・ 研修などである程度の期間の中で行うのであれば、可能性はある

●かなたけの里公園に勤務する地域住民のヒアリング

かなたけの里公園に勤務する地域住民を対象に実施した聞き取り調査結果の詳細内容について、以下に示す。

<p>【日時】 平成 30 年 2 月 6 日（火） 11 時 00 分～12 時 00 分</p> <p>【参加者】 かなたけの里公園に勤務する地域住民： 犬童正博氏、坂本義臣氏、毛利博義氏、山口清一氏</p> <p>【場所】 かなたけの里公園 研修室</p>



ヒアリングの状況

表 2-7 都市住民や企業との連携可能性（公園に勤務する地域住民へのヒアリング結果）

農や地域の活性化に向けて「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に期待すること	地域や農家にできること
<ul style="list-style-type: none"> ・遊休地等の活用に向けた農地の貸し手と借り手のマッチング事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングを図る際の受付窓口の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・農体験の受入れが可能な人材や農地の情報管理及び共有
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物のブランド化（安全、安心による高付加価値） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報・PR活動、特産品開発の支援 ・安全、安心な金武の野菜をPRするための手法検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農作物のブランド化や高付加価値化 ・栽培管理方法の情報公開等を通じた、安全、安心野菜のPR
<ul style="list-style-type: none"> ・金武校区を1日中楽しめる取組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営管理 ・取組みに参加する関係者の調整 ・広報、PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・農体験の受入れが可能な人材や農地の情報管理及び共有
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の竹林や果樹園を活用した農体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園への来園者や園内での農体験に参加できなかった市民への受入れ可能な農家の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の竹林や果樹園の整備や管理 ・農体験指導の人材確保

<公園に勤務する地域住民へのヒアリング結果>

・公園が整備され、地域での雇用がうまれましたがどのように思われますか（公園に勤務したことで良かったことなど）

- ・定年後の雇用が生まれ、良い事である。多くの人と接し生きがいを感じる
- ・広範な知識の習得と人脈形成ができた
- ・地元の人々と交流して金武の事を知る機会となり良かった
- ・異業種の経験者の集まりなので、自分の生き方と仕事の取組みに役に立っている
- ・家庭菜園だけの経験しかなかったが、かなたけの里公園で農家の人と同じ職場になったことで、農業実務が体験できている

・金武校区や地域の農をもっと魅力的にするために何が必要と考えますか

- ・誰でもが収穫物を出荷又は加工し、販売できるシステムを作る。6次産業の育成
- ・農機具や栽培にかかる人件費と比較して、野菜の販売価格が低すぎるため、経営が成り立たず、後継者も育ちにくい
- ・地域活性化という目標を立て、不足している部分を連携にて補う。
- ・金武ブドウに優る特産品を生産し、農家の収益を高くする事で後継者不足を解消する。作物としては、イチジク、ブルーベリー、筍等が考えられる
- ・誰が、何処で、どのような方法で栽培した農作物かわかるシステムで消費者に情報を伝え、安全、安心をアピールし、大量作付品・輸入品と差別化を図る
- ・収穫された農作物の安全、安心であることの証明の方法として、IT技術を活用し、金武校区の個々の生産者の情報等をネットに挙げ、消費者がそれを見ることで、購入した作物等が安全、安心であると認識できる
- ・金武校区において、安全、安心な作物のブランド創作ができるのであれば、低価格な慣行農法の農作物に左右されず、農家の安定収入に寄与できて、農業だけでやっていける農家が増えると思う

・かなたけの里公園に期待することは何かありますか

- ・遊休地等や後継者がいない農家の農地を、外部の人が耕作に協力するための受付窓口となっていけると良い
- ・地域の中核として、積極的な役割を果たしてほしい
- ・季節感のある花（サツキ、ツツジ、アジサイ、モクレン）を植え、平日お年寄りの人々が散歩を楽しめる公園にすると良い
- ・いろいろなイベントを通じて、多くの子どもの保護者が「かなたけの里公園」に来園して、自然や農に親しめることができれば、農業への関心や安全、安心な食品の生産にも繋がっていくと思う

・ かなたけの里公園に期待することは何かありますか

- ・ 農業体験農園の中で、希望者には無農薬・無化学肥料の耕作地・栽培法を指導できると良いと思う
- ・ 「かなたけの里公園」の近くの利用されていない田畑を、「かなたけの里公園」が管理者となって、農業体験をしたい人々に紹介する仕組みづくりができると良い。その際に、草刈・畦立て等の作業は「かなたけの里公園」で管理・運営できると良い
- ・ 農体験を通じた、地域の遊休地活用
- ・ 環境保全としての日本蜜蜂の飼育指導活動
- ・ 公園近隣の竹林の整備・管理を始めており、公園と連携した農体験の実施を将来的に実施したい
- ・ 自然農法と必要最小限の石油消費による安全、安心な農作物の生産

●校区自治協議会 子ども育成会

金武校区自治協議会の子ども育成会を対象に実施した聞き取り調査結果の詳細内容について、以下に示す。

【日時】
 平成 30 年 2 月 22 日（火）19 時 00 分～19 時 30 分

【参加者】
 校区自治協議会 子ども育成会：
 二神会長、今西氏、古田氏

【場所】 金武公民館



ヒアリングの状況

表 2-8 都市住民や企業との連携可能性（子ども育成会へのヒアリング結果）

農や地域の活性に向けて 「できるといいこと」	企業やかなたけの里公園に 期待すること	地域や農家に できること
・世代間交流や他校区との 交流促進プログラム	・場所の提供や、プログラム 内容の企画支援	・参加者への案内及び引 率、プログラム運営
・昔ながらの遊びや自然を 使った遊び	・場所の提供や、プログラム 内容の企画補助、遊び道具 の作成	・参加者への案内及び引 率、プログラム運営

<子ども育成会へのヒアリング結果>

<p>・ 育成会としての活動内容や課題を教えてください</p>
<p>・ 現在、地域農家と連携して、支援米づくりをしている。田植えや稲刈りにしか参加できておらず、途中の除草作業などには関わっていない。栽培管理にも関わっていく必要があると考えているが、定期的な参加は難しい</p> <p>・ その他の活動内容は、『キャンプや田植え、どんど焼きなどの野外活動』、『各球技大会、駅伝大会などのスポーツ』、『文化祭やもちつき、クリスマス会などの文化活動』、『資源回収や海岸清掃の環境活動』などがある</p> <p>・ これまで三世代（子ども・父母・祖父母）が交流するためのスポーツ大会があったが、今年でなくなってしまう</p>

<p>・ かなたけの里公園に期待することは何かありますか</p>
<p>・ 自然の遊びができることをもっとアピールして、かなたけの里公園を周辺地域にPR・周知してほしい。例えば、虫取りやつくし採りなどができるとうい</p> <p>・ 子どもがかなたけの里公園に興味をもつような遊びのプログラムや企画を作ってほしい</p>

<p>・ かなたけの里公園が整備される前と後で何か違いがありますか？</p>
<p>・ 地域の催しがかなたけの里公園を利用してできるようになった</p>

<p>・ 現在、かなたけの里公園を利用して様々な地域イベントを催していますが、その他に、公園と協力して行ってみたいことはありますか？</p> <p>また、公園以外に企業と連携してみたいことはありますか？</p>
<p>・ 昔の遊び(竹馬、コマ回し、竹トンボなど)ができるイベント</p> <p>・ 三世代（子ども・父母・祖父母）交流を促進するイベントを、かなたけの里公園でできると良い</p> <p>・ 継続的に行っている他校区との交流イベントを、かなたけの里公園を活用して実施したい</p>

3. 地域における都市農業の課題及びニーズの把握

ヒアリング結果の一覧は下表のとおりである。

表 2-9 ヒアリング結果一覧

	地域の農やまちづくり、その他の活動に関する課題	公園整備による波及効果	企業等の連携可能性について			総括
			農の活性に向けてできると良いこと	企業（公園含む）に期待する役割	地域（農家）の役割	
かなたけの里公園 指定管理者 チーム里の環	<ul style="list-style-type: none"> 地域と協働での農体験を実施したいが、地域組織との連携体制がまだ整っていない 体験への応募に対して申込み数が多く、機会損失が発生している 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の雇用が創出できた お祭り等の集客イベント時に地域の農作物の消費に貢献できた 地域行事の場となった 子ども達の遊びや学習の場となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域農家が主体となった本物の農地での農体験 地域の農作物のブランド化 民間企業等の外部団体による公園及び地域資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 農体験の指導マニュアルやノウハウの提供 地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力 公園、地域と連携したイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や校区外の住民を受け入れる農地や指導する人材の提供 地域協働での農作物のブランド化や高付加価値化 農作物等の地域資源活用の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズを満足させるためには周辺農地での農体験が必要 農体験やブランド化を目指す上で、外部企業や地域組織の協働が必要
地域自治組織 ・公民館 ・校区自治協議会 ・町内会	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴い、農家が減り、共同作業ができにくくなった 市場に卸せない規格外野菜の流通ができず、破棄されている 補助金や減反などの農に関わる制度の変化により、現在の農業が続けにくくなりつつある 	<ul style="list-style-type: none"> 後期高齢者の活動の場となっている 公民館や小中学校、幼稚園などの活動の場が生まれた 活動の場がより広がってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農作物の直売所の設置 規格外の地域の農作物の消費 地域農家が主体となった本物の農地での農体験 公園周辺の竹林での筍収穫体験 地域の農作物のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> 販売場所の提供 農家が卸した作物の販売 農体験の指導マニュアルやノウハウの提供 体験希望者の紹介 ボランティア等による間伐作業 地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力 	<ul style="list-style-type: none"> 余剰分や小規模な農地での作物提供、規格外野菜の提供 企業や校区外の住民を受け入れる農地や指導する人材の提供 受入れ可能な竹林の提供 イベント等で好評であった農作物のブランド化 農作物に関する地域の意見統一 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農作物の消費拡大のための直売所とその運営に企業等の連携が必要 地域の農作物や農地の提供、ブランド化に向けて取組みたいが、作物の取り扱いに関しては地域の意見調整が必要
地域住民代表者 (7地区組合代表)	<ul style="list-style-type: none"> 農業の経営難により、地域内での後継者不足が発生している 中山間の農村での農地集約や大規模経営は難しい 農機具をはじめとする経費の高沸で経営が困難となる 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の雇用を創出した 公園をきっかけとして金武という地域が広く知られるようになった イベント等を通じて、地元農作物の販路拡大につながった 	<ul style="list-style-type: none"> 地域農家が主体となった本物の農地での農体験 地域の農作物のブランド化 地域の農作物の直売所の設置 昔の風景やイメージづくり 自由度の高い指導付き貸し農園 遊休地を企業や個人が耕作できる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 公園来園者への、農体験受入れが可能な農家の紹介 地域の農作物の流通や、広報・PR活動の協力 販売場所の提供と広報・PR活動 具体的な取組みの計画 野菜づくりの指導ノウハウや指導員の提供 農地を活用したい企業や人材と受け入れる地域とのマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> 受入れが可能な農家や農地の情報が共有できる仕組みづくり 地域農家の意思の統一や共有、商標登録等 J Aと協力した上での、地域の農作物の提供 風景やイメージの具体化 受入れ可能な農家や農地の提供 栽培指導の補助（将来的には主体的に実施） 受入れ可能な農家や農地の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 農作物の消費拡大のための直売所とその運営に企業等の連携が必要 地域の農作物や農地の提供、ブランド化に向けて取組みたいが、作物の取り扱いに関しては地域の意見調整が必要 地域の農地で農体験を行いたい、指導ノウハウが少なく、公園の協力が必要 農業の組織経営が必要
農業従事者（J A 福岡市金武支店・ 金武農業振興連絡協議会）	<ul style="list-style-type: none"> 農家の高齢化が進み遊休地の増加が危惧される 農地維持のための農地集積、後継者育成が必要 地域活性化に向けた新たな組織が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 連携イベント時のトラック市等、地域農家による直接販売の場となり、売り上げも増えた 近隣の教育機関や地域の催しの際、公園の駐車場を借りることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 農地で収穫した野菜を使った料理教室 地域の農作物のPR活動 公園を拠点とした、金武校区を1日中楽しめる取組みづくり 金武校区全体での収穫祭 	<ul style="list-style-type: none"> 開催場所の提供 指導者の提供 マスコミ等を通じた広報・PR活動の支援 企画運営 ・関係者調整 広報、PR活動支援 企画運営 ・関係者調整 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農作物や収穫する農地の提供 地域の農作物のブランド化や高付加価値化 農体験の受入れが可能な人材や農地の情報提供及び共有 販売する農作物の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴う遊休地の増加が懸念されており、地域活性化に向けた新たな組織体制が求められている かなたけの里公園を拠点として、農体験による地域めぐりといったまちづくりへの展開が求められる
新興住宅地居住者	<ul style="list-style-type: none"> 仕事をしながら、参加頻度の多い農体験に継続して参加することは難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な余暇活動や、地域活動の際の離合集散の場として使っている 	<ul style="list-style-type: none"> 環境を活かしたアウトドア体験 近隣住民による地域産野菜の購入 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な参加を生む企画の工夫 販売場所の提供 広報、PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> 住民同士のPR、継続的な参加 住民同士のPR、継続的な購入 	<ul style="list-style-type: none"> 現状では地域の農への関わりは少ないため、農体験への参加や地域の農作物購入のきっかけづくりが必要
かなたけの里公園 勤務の地域住民	<ul style="list-style-type: none"> 農機具や栽培にかかる人件費と比較して、野菜の販売価格が低すぎるため、経営がなりたたず、後継者も育ちにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 定年後の雇用が生まれ生きがいを感じる 地域間の新たな交流が生まれた 農業に関わっていない人にとっては、農業実習の場となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 遊休地等の活用に向けた農地の貸し手と借り手のマッチング 地域の農作物のブランド化 公園を拠点とした、金武校区を1日中楽しめる取組みづくり 地域の竹林や果樹園を活用した農体験 	<ul style="list-style-type: none"> マッチングを図る際の受付窓口の役割 安全、安心な金武の野菜をPRするための手法検討 企画運営 ・関係者調整 広報、PR活動支援 来園者や園内の農体験に参加できなかった市民への紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 農体験の受入れが可能な人材や農地の情報提供及び共有 栽培管理方法の情報公開等を通じた、安全、安心野菜のPR 農体験の受入れが可能な人材や農地の情報提供及び共有 地域の竹林や果樹園の整備や管理 農体験指導の人材確保 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の取組みが地域に波及し、農体験による農業支援の取組みが生まれることが期待されている 公園が拠点となって、周辺地域の耕作放棄や遊休地の管理や活用の仕組みが期待されている
子ども育成会	<ul style="list-style-type: none"> 米づくり体験として栽培まで含めた参加をしたいが、頻繁な案内・実施が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事を公園でできるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> 世代間交流や他校区との交流促進プログラム 昔ながらの遊びや自然を使った遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 場所の提供やプログラム内容の企画支援 場所の提供やプログラム内容の企画支援 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者への案内及び引率、プログラム運営 参加者への案内及び引率、プログラム運営 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や世代の交流を目的としたレクリエーションの取組みの企画と運営が期待されている

ヒアリングを通じて把握できた地域の課題やニーズは、以下の通りである。

地域農家が直接農作物を販売できる仕組みづくり

- ・地域の農作物で、規格外野菜などの市場に卸せないものや、小規模な農地で栽培した農作物の直売所が地域内にあることが求められている。また、その拠点としての役割を、かなたけの里公園のような集客力を有する施設が担うことが期待されている。

かなたけの里公園を拠点として広がる農業支援の仕組みづくり

- ・かなたけの里公園が開園したことで地域雇用の創出や地域との連携により、様々な活動の場が設けられている。今後は、公園を拠点とした周辺農地での農体験や地域巡り、公園での地域農作物の販売の仕組みといった新たな連携や、企業や市民による農業支援の取組みが求められている。
- ・農家の高齢化により農作業ができず、遊休地となる農地の活用として、栽培体験などができる農体験プログラムの地域の農地での実施が求められている。また、農体験を通じた地域巡り等、まちづくりへの展開が求められている。

農業の効率化と農作物の高付加価値化による経営改善

- ・地域の農作物のブランド化や高付加価値化などが多く求められているが、流通・広報・PRに関するノウハウが乏しいため、企業等との連携が必要とされている。
- ・農家の高齢化に伴い、農作業等への負担が大きいことから、農家同士で協働して農業生産過程の全て又は一部を取り組む組織による集団営農や、農業の大型化が多く望まれている。

第3章 都市住民・企業の農業や農体験に対するニーズ把握

1. かなたけの里公園における農体験の実施状況

かなたけの里公園は、農作業体験活動を取り入れた都市公園であり、福岡市民を主な対象として、収穫のみの体験、月1回程度の定期参加による栽培体験、資機材・種苗肥料等が提供される自由参加の指導付き貸し農園（農業体験農園）等が実施されている。また、近隣の大規模商業施設のイベント管理・運営を行っている事業者と連携して、企業の顧客サービスの一環として行われる農体験が行われており、その概要も合わせて整理した。ここでは、平成29年度に実施された農体験の実施手法・期間・参加人数・対象面積等を調査した。なお、指定管理者が市民団体と連携して公園外の農地で実施している米づくり体験に関しては、実証調査の対象として詳細を調査したため、その内容は4章で述べている。

①収穫体験の取組み

播種・植え付けから施肥・間引き等の栽培管理を指定管理者が行い、参加者は収穫のみを体験し、収穫した作物は持ち帰ることができる。季節ごとの野菜の収穫体験の他、園内の竹林や果樹園での、筍・クリ・ダイダイ・ハッサク等の収穫体験を行っている。

四季の野菜収穫体験

【実施手法】

季節ごとの野菜の収穫体験で、収穫可能な時期であれば毎日決まった時間帯で実施

【実施期間】 通年

【募集方法】 当日窓口での先着申込み

【参加人数】 通算参加人数 2,569人

【利用面積】 5,900㎡

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

体験参加時に都度1人 このほか、準備として20人



ジャガイモ収穫体験

タケノコ収穫体験

【実施手法】

4月上旬に竹林保全活動の一環として、
タケノコの収穫体験を実施

【実施期間】4月上旬

【募集方法】事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】参加人数 88人

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】体験参加時に 10人



タケノコ収穫

クリ収穫体験

【実施手法】

園内のクリ園での収穫体験

【実施期間】9月中旬

【募集方法】事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】参加人数 187人

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

体験参加時に 4人半日（全3回）



クリ収穫

ダイダイ・ハッサク収穫体験

【実施手法】

園内のミカン園での収穫体験

ダイダイはダイダイ酢づくり体験もセットで実施

【実施期間】12月下旬

【募集方法】当日窓口での先着申込み

※平成29年度は収量が少ないため、

あらかじめ収穫したものを使った酢づくり体験を実施

【参加人数】参加人数 63人



ダイダイ酢づくり

②栽培体験の取組み

・定期参加の栽培体験（穀物）

穀物（大豆・麦・ソバ）類の播種から間引き・草取までの栽培管理、収穫及び加工体験までに参加する栽培型の体験。指定管理者が設定した日程で、週1回～月1回程度の頻度で体験に参加する。

大豆づくり体験

【実施手法】

決まった活動日への定期参加の栽培体験（月1回程度）

【実施期間】 7月～1月

【募集方法】 事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】 31組（111人） 累計参加人数 598人

【利用面積】 1,650㎡

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

作業活動日半日2人（全8回）

このほか、準備として5人



枝豆（大豆）の収穫



大豆の選別

麦づくり体験

【実施手法】

決まった活動日への定期参加の栽培体験（月1回程度）

参加者は草刈・収穫・製粉・うどん打ちに参加

【実施期間】 5月～6月

【募集方法】 事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】 15組（42人） 累計参加人数 175人

【利用面積】 700㎡

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

作業活動日半日2人（全2回） うどん打ち講師 1人

このほか、準備として6人



麦の収穫



麦の製粉

ソバづくり体験

【実施手法】

決まった活動日への定期参加の栽培体験（月1回程度）

【実施期間】 8月～1月

【募集方法】 事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】 14組（45人） 累計参加人数 261人

【利用面積】 1,700㎡

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

作業活動日半日2人（全7回） ソバ打ち講師 1人

このほか、準備として5人



ソバの間引き・草取り



唐箕掛け

・定期参加の栽培体験（ブドウ）

大豆・麦・ソバの穀物栽培体験と同様に、活動日が設定された上で参加する定期参加の栽培体験であり、植え付け・剪定・防除等の一部を除く管理作業に参加する。

ブドウづくり体験

【実施手法】

決まった活動日への定期参加の栽培体験

（5月～7月：週1回 8月：収穫3回程度）

【実施期間】 5月～10月

【募集方法】 事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】

栽培体験：35組（110人）

累計参加人数 943人 収穫体験：215組 642人

【利用面積】 1,100㎡

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

作業活動日半日2～3人（全12回）

このほか、準備として20人



誘引作業



袋掛け作業

③農業体験農園、里の暮らし体験

農業体験農園及び里の暮らし体験は、種苗・肥料・資材等をすべて指定管理者が用意し、定期的な講習会に参加しながら、一定のルールの下で野菜づくりを学ぶ、指導付き貸し農園として行われている。

【実施手法】

種苗・肥料・資材は指定管理者が準備する。定期的な講習会に参加しながら自由な日程で作業を行う。作付する野菜の種類や植え付けの数、使用する肥料等は全てルールが決まっている。

【実施期間】

年間での利用（4月1日～3月31日）。最大で1年間の更新が可能。

【募集方法】 事前応募（申込者多数の場合は抽選）

【参加人数】 140組 累計参加人数 16,696人

【利用面積】

農業体験農園 1区画 30㎡ 里の暮らし体験 1区画 36㎡

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

平日午前中1人 休祝日終日2人 講習会（年19回・1回あたり2.5日）3人

このほか、準備として20人



現場での実地指導



農機具倉庫



栽培講習会



農業体験農園全景

④企業と連携の農体験の取組み

かなたけの里公園では、これまでに外部の企業と連携した農体験を実施しており、公園のPR活動に加えて、地域農家と連携した手法で取り組むことで、地域産物の消費にも貢献している。ここでは、その実施手法を確認した。

<公園内での収穫体験の取組み>

参加企業：金武校区に近接する大型商業施設のイベント企画運営を行っているサービス系事業者。かなたけの里公園と連携し、地域活性化・顧客サービスを目的とした、施設来場者向けの農体験を年に数回実施している。

野菜収穫体験

【実施手法】

季節ごとの野菜の収穫体験。収穫する作物は、ジャガイモ、タマネギ、サツマイモ、サトイモ等。一般参加の収穫体験用の畑と同じ場所を利用。

【実施場所】かなたけの里公園内の畑地

【実施期間】

6月、10月、2月（年度によって回数・時期は異なる）

【参加人数】

1回あたり30組～50組（作物の状況によって参加組数を調整）

【参加費】

1組あたり参考

ジャガイモ・タマネギ収穫体験500円 サツマイモ・サトイモ収穫体験500円

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

体験参加時に都度1～2人 その他、企業より3名程度受付・案内



ジャガイモ収穫体験



サトイモ収穫体験

<地域農家と連携した公園外での収穫体験の取組み>

タケノコ収穫体験

【実施手法】

近隣の農家と連携し、園外の竹林で実施するタケノコの収穫体験。集合・離散の場所をかなたけの里公園の多目的駐車場とし、実施場所までは徒歩による移動。また、ヘルメットといった安全装具や収穫に必要な農具は公園で準備している。

【実施の経緯】

園内での筍収穫体験を実施予定であったが、実施予定時期に十分な生育となっておらず、近隣の農家に協力を依頼した。

【実施場所】 近隣住民所有の竹林内

【実施期間】 4月

【参加人数】 1回あたり 30組～50組（作物の状況によって参加組数を調整）

【参加費】 1組あたり参考 タケノコ収穫体験 1,000円

【プログラム運用に必要な人員体制等（指導員）】

体験参加時に都度1～2人 その他、企業より5人程度受付・案内



公園スタッフによる案内



公園の農具を用いた収穫体験

指定管理者が実施している農体験として、園内での収穫体験や栽培体験、農業体験農園のほか、園外で地域農家の協力の下で実施した筍収穫体験が確認された。この体験は、本来園内で実施予定だったが、実施日に生育が十分ではなかったため、地域農家の協力により園外の竹林で行われている。地域活性化や顧客サービスを目的とする企業活動と連携しての農体験が実施されている一方で、地域農家が所有する農地を対象とした農体験は、積極的には行われていないことがわかった。

2. 都市住民へのアンケート

このアンケート調査は、かなたけの里公園の農体験経験者、及び集客イベントへの来園者を対象に農体験に関してどのような意識を有するか等を明らかにし、現状課題や市民ニーズ等を把握することを目的として実施した。

農体験経験者へのアンケート

農体験経験者として、指導・種苗・資材付きの貸し農園である、農業体験農園及び里の暮らし体験への参加者、また、米づくり体験への参加者アンケートを実施した。回答数及びアンケートの概要は以下の通りである。

農業体験農園・里の暮らし体験参加者 回答数 126 人

米づくり体験参加者 回答数 17 人

1. 自身の属性について

性別や年齢、職業などについて全 5 項目の設問、選択回答にて確認する。

2. 農体験について

農体験の経験年数や参加形態、参加頻度、今後の農体験への意向等について全 12 項目の設問、選択回答で確認する。その内、『(7) 農体験に参加したことで感じたこと』についての全 7 項目の設問では、5 段階による回答で確認する。

3. 農体験をしたことで、興味をもったことについて

農村集落への移住意向や農体験の運営への関わり、居住地周辺の動植物の観察などについて全 3 項目の設問、5 段階による回答で確認する。

4. 金武校区の農地での農体験について

金武校区の農地での農体験に参加する上で、望むことや不安なこと、魅力となる施設や設備等について全 3 項目の設問、選択回答で確認する。設問(1)では、公園の農体験と比較して、作物の品種や栽培手法、畑の広さなど全 4 項目の設問、選択回答で確認する。

5. 地域の農地を活用した企業連携による援農活動に関する取組み手法について

今後、金武校区の農地を活用して企業連携による援農活動の取組み手法について、可能性のある取組みについて選択回答で確認する。また、選択した取組みについて自身の持つ具体的なイメージを記述式で確認する。

最後に、その他の意見や感想について記述式で確認する。

農業体験農園・里の暮らし体験利用者アンケート

九州大学芸術工学院環境デザイン部門

NPO法人環境文化プロジェクト機構

【調査目的】

市街地周辺における耕作放棄地や遊休農地が増えている現在、新たな農の営みの活用や持続可能性、地域の活性化へとつなげる仕組みづくりを目的として実証調査・検討等を行っています。

そこで、これまで農業体験農園・里の暮らし体験（以下、農体験）を経験された皆さまへ、現在の状況と金武地域の農地での農体験に関する意見・意向をお聞きし、今後の仕組みづくりを考える上での参考資料とするため、アンケート調査のご協力をお願いいたします。

1. あなた自身に関してお伺いします。当てはまるものに○をつけてください。

(1) 性別

- ①男性 ②女性

(2) 年齢

- ①20歳未満 ②20～29歳 ③30～39歳 ④40～49歳
-
- ⑤50～59歳 ⑥60～69歳 ⑦70歳以上

(3) 職業（勤務形態）

- ①農家 ②会社員 ③公務員 ④自営業 ⑤専門職 ⑥専業主婦（夫） ⑦学生
-
- ⑧教師 ⑨パート・アルバイト ⑩無職 ⑪その他（ ）

(4) 業種 ※定年退職等された方は、以前の業種をお答えください。

- ①建設業 ②製造業 ③電気・ガス・熱供給・水道業 ④情報通信業
-
- ⑤運輸業、郵便業 ⑥卸売業、小売業 ⑦金融業、保険業
-
- ⑧不動産業、物品賃貸業 ⑨学術研究、専門・技術サービス業
-
- ⑩宿泊業、飲食サービス業 ⑪生活関連サービス業、娯楽業 ⑫教育、学習支援業
-
- ⑬医療、福祉 ⑭複合サービス業 ⑮サービス業（他に分類されないもの）
-
- ⑯公務（他に分類されない） ⑰農業、林業 ⑱漁業 ⑲鉱業、採石業、砂利採取業
-
- ⑳その他（ ）

(5) お住まい () 内には町名を記載してください。例（町名：金武）

- ①西区 ②早良区 ③城南区 ④中央区 ⑤南区 ⑥博多区 ⑦東区
-
- (町名：) ⑧その他（ 県 市町村 区 ）

2. 農体験についてお伺いします。

(1) 農体験を始めて何年目になりますか？（里の暮らし体験利用者の方は農業体験農園からの通算年数でお答えください）

- ①1年目 ②2年目 ③3年目 ④4年目 ⑤5年目以上

(2) 農体験への参加には、誰と一緒に参加していますか？（複数回答可）

- ①親子 ②夫婦 ③地域サークル（子ども会含む） ④学校のサークル活動
-
- ⑤複数の家族でのグループ ⑥企業の仲間 ⑦所属する団体の仲間
-
- ⑧知人・友人 ⑨その他（ ）

(3) 農体験にはどの程度の頻度で参加していますか？

- ①ほぼ毎日 ②週に数回程度 ③月に数回程度 ④年に数回程度
-
- ⑤収穫期のみ ⑥数年に1回程度 ⑦その他（ ）

(4) 現在の体験の参加費用はいかがですか？

①高い ②適切 ③安い ○適切だと思う費用 年間_____円

(5) どのような目的(きっかけ)で農体験に参加しましたか？(複数回答可)

- ①農体験に興味があったから ②農村環境に興味があったから ③自然が好きだから
④植物や動物が好きだから ⑤農家の人と交流してみたかったから
⑥同じような趣味を持つ人と交流してみたかったから
⑦家族や知人と過ごすのいい環境だったから ⑧家族や知人に農体験をさせたかったから
⑨体を動かしたかったから ⑩珍しいことに挑戦してみたかったから
⑪身内や知人が参加するから ⑫なんとなく面白そうだから ⑬その他()

(6) 農体験の中で、あなたが魅力的だと感じたことはどのようなことですか？(複数回答可)

- ①農体験そのもの ②動植物や土に触れること ③田や畑が広がっていること
④遠くに見える山々 ⑤静かな田園環境 ⑥鳥や虫の鳴き声 ⑦体を動かせること
⑧参加者との交流(家族) ⑨地元農家の方との交流 ⑩農業についての知識を得ること
⑪農業以外についての知識を得ること ⑫その他()

(7) 農体験に参加したことで感じたこと

1) 農業の大変さを知った

- ①とてもそう感じた ②そう感じた ③どちらでもない
④あまり感じなかった ⑤全く感じなかった

2) 栽培の楽しみを知った

- ①とてもそう感じた ②そう感じた ③どちらでもない
④あまり感じなかった ⑤全く感じなかった

3) 収穫の喜びを知った

- ①とてもそう感じた ②そう感じた ③どちらでもない
④あまり感じなかった ⑤全く感じなかった

4) 食べ物のありがたさを知った

- ①とてもそう感じた ②そう感じた ③どちらでもない
④あまり感じなかった ⑤全く感じなかった

5) 自然や環境の大切さを知った

- ①とてもそう感じた ②そう感じた ③どちらでもない
④あまり感じなかった ⑤全く感じなかった

6) 心がリフレッシュできた

- ①とてもそう感じた ②そう感じた ③どちらでもない
④あまり感じなかった ⑤全く感じなかった

7) 現在のプログラム内容の満足度

- ①とても満足 ②どちらかと言えば満足 ③どちらでもない
④どちらかと言えば不満 ⑤とても不満

(8) 農体験に参加したことをきっかけとして、かなたけの里公園で興味をもったことや、今後やってみたいと思ったことはありますか？(複数回答可)

- ①公園で行われている四季の祭事 ②公園で開催する散策・ウォーキングイベント
③公園で行われている竹林保全活動などのボランティア活動 ④収穫物を使った食事会・宴会
⑤収穫物を使った料理教室 ⑥動植物の観察・学習会 ⑦農業に関する学習会
⑧利用者・来園者の人との交流会 ⑨その他()

(9) かなたけの里公園の農体験をきっかけに公園以外で農体験に参加したことがありますか？

- ①はい ②いいえ

(10) (9)で「はい」と回答した方にお伺いします。どのような農体験ですか？(複数回答可)

- ①家族や親戚の農業の手伝い ②自宅の庭やベランダでの家庭菜園
③市民農園(区画を借りて農作物を育てる) ④観光農園(観光地でのいちご狩りなど)
⑤旅行社によるグリーン・ツーリズム ⑥農業ボランティア
⑦オーナー制の農地での農作業 ⑧学校や職場の実習・農業体験
⑨地域イベント等 ⑩その他()

(11) 今後も農体験をやりたいですか？

- ①とてもやりたい ②やりたい ③どちらでもない ④あまりやりたくない
⑤全くやりたくない

(12) 上記の(11)で「⑤全くやりたくない」と回答した方にお伺いします。どのような理由で農体験をやりたくないですか？(複数回答可)

- ①農作業が大変(体力がもたないなど) ②費用が高い ③内容に興味を持っていない
④交通が不便 ⑤他にやりたいことがある ⑥その他()

3. かなたけの里公園で農体験をされたことで、興味をもたれたことについてお伺いします。

(1) 農村集落に住むことへの興味について

- ①とても高くなった ②やや高くなった ③どちらでもない ④あまりない ⑤全くない

(2) 農体験の運営に参加することへの興味について

- ①とても高くなった ②やや高くなった ③どちらでもない ④あまりない ⑤全くない

(3) お住まい周辺の動植物を観察することへの興味について

- ①とても高くなった ②やや高くなった ③どちらでもない ④あまりない ⑤全くない

4. 現在、金武地域の農地(公園外)で農体験ができるような仕組みづくりを計画しており、いくつかの体験プログラムの実証調査や、企業と連携した新しい仕組み等の検討を行っています。そこで皆様に、金武地域の農地での農体験に関してお伺いします。

(1) もし、かなたけの里公園にはない新しい農体験が金武地域の農地で参加できるとしたら、以下の項目についてどのようなことを望みますか？

公園と比較してお考えください。

1) 作物の品種について

- ①自由に品種が選べる ②いくつか決められた品種の中から好きな品種を選べる
③里公園と同じようにする ④決められた品種です(里公園より少ない)
⑤その他()

2) 作物を栽培していく手法について

- ①有機栽培 ②自然栽培(農薬や有機・化学肥料、堆肥等を一切使わない栽培のこと)
③里公園と同じ(最低限の量の農薬や化成肥料を使用) ④その他()

3) 畑の広さについて

- ①里公園より広く ②里公園と同じ(30平方メートル) ③里公園より狭く
○希望する畑の広さ 約_____平方メートル

4) 農薬の使用

- ①多く ②やや多く ③里公園と同じ ④やや少なく ⑤使わない

(2) 金武地域の農地で新しい農体験に参加するとしたら、どのような不安を感じますか？(複数回答可)

- ①農家との付き合い ②他の参加者との付き合い ③現地までの交通手段 ④天気
⑤会費や必要な道具にかかる費用 ⑥参加の継続 ⑦自分の体力 ⑧同行している家族や知人の動向
⑨仕事や家庭への支障 ⑩作物に関する知識不足 ⑪作業への興味の低下(飽き)
⑫特に不安に思うことはない ⑬その他()

(3) 金武地区の農地で新しい農体験に参加する上で魅力となる施設や設備はどのようなものが考えられますか？(複数回答可)

- ①調理場 ②飲食スペース(BBQ場等) ③レストラン ④すべり台などの遊具
⑤広場 ⑥休憩所 ⑦野菜などの直売所 ⑧更衣室・シャワー室 ⑨図書スペース
⑩宿泊施設(ロッジ, キャンプサイト等) ⑪その他()

5. 本調査では、地域の農地を活用した企業連携による援農活動に関する取組手法に関して検討しております。差支えなければ、以下のご質問にもお答えください。また、既に退職された方は、よろしければ以前のお勤めに関してお答えください。

(1) 新しい仕組みの農体験において、企業活動による農体験に参加するとしたら、どのようなことを期待しますか？(複数回答可)

- ①社員研修 ②会社の福利厚生 ③社員同士の交流 ④ボランティア等の社会貢献活動
⑤景観や農地、農産物を活用したビジネス活動(販売、農家レストラン、製品開発など)
⑥農林業への新規参入 ⑦顧客サービスの向上 ⑧関心はない ⑨その他

○具体的なイメージがある方は、下表に記述をお願い致します。

①社員研修	
②福利厚生	
③社会貢献活動	
④ビジネス活動	
⑤農林業への新規参入	
⑥顧客サービス	
⑧その他	

(2) 上記について、より詳しい内容をヒアリングやアンケートでお伺いしてもよろしいでしょうか？また、「はい」とお答えいただいた方は、よろしければ畑番号をお教えください。後日、事前にご連絡の上で、お話を伺いに行く場合がございます。

1. はい 畑番号：南一【 】 北一【 】 里一【 】

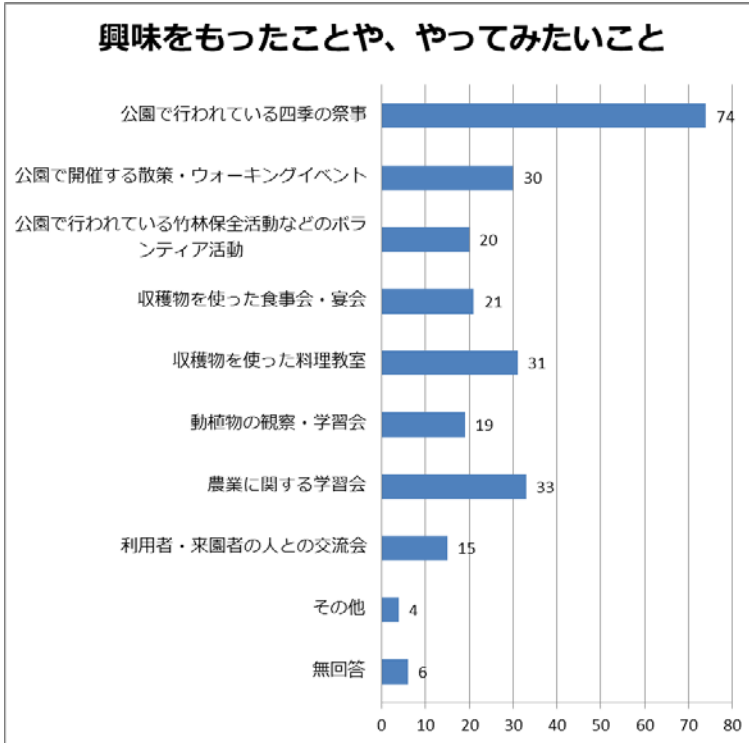
2. いいえ

■その他、ご意見・ご感想等ありましたらお願い致します。

ご協力いただきありがとうございました。

※米づくり体験参加者に同様のものを実施

本アンケートで確認できた回答結果の一部を示す。

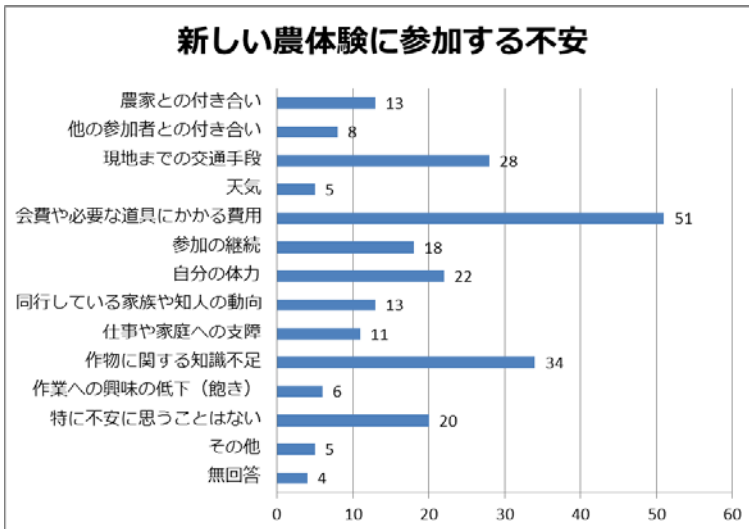


設問2-(8)

農体験への参加をきっかけとして公園で興味をもったことや、やってみたいこと

- ・公園での四季の祭事
- ・農業に関する学習会
- ・収穫物を使った料理教室
- ・散策、ウォーキング

の回答数が多い



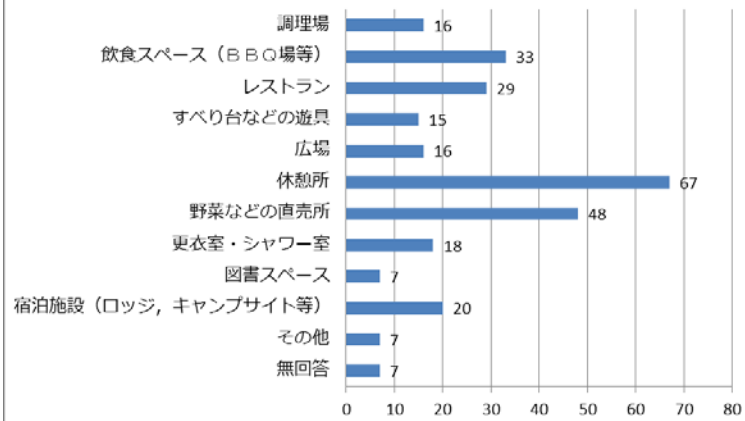
設問4-(2)

地域での新しい農体験に参加する不安要素

- ・現地までの交通手段
- ・会費や道具の費用
- ・作物に対する知識不足

の回答数が多い

魅力となる施設や設備



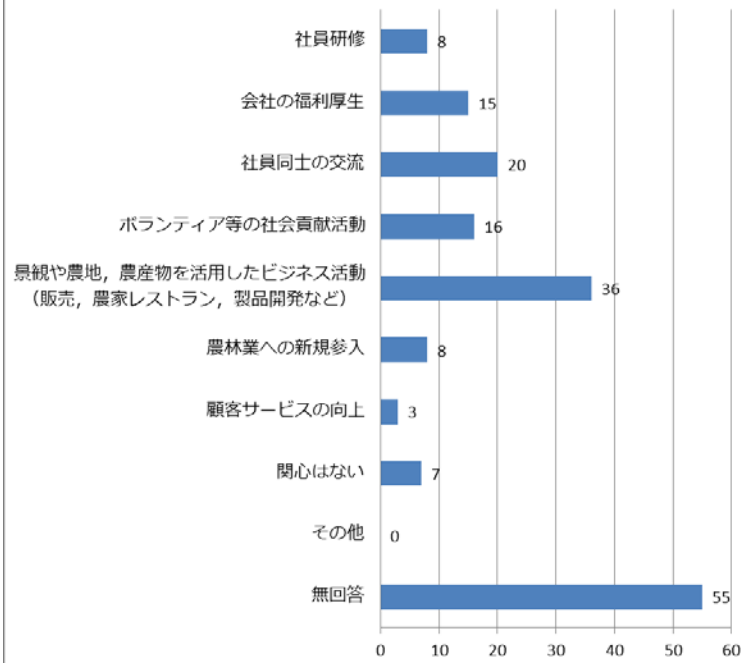
設問４－（３）

地域での新しい農体験に参加する上で、魅力となる施設や設備

- ・ 休憩所
- ・ 野菜などの直売所
- ・ 飲食スペース
- ・ レストラン

の回答数が多い

企業活動による農体験への期待



設問５－（１）

企業活動による農体験への期待

- ・ ビジネス活動
- ・ 社員同士の交流
- ・ 社会貢献活動
- ・ 会社の福利厚生

の回答数が多い

一般来園者へのアンケート

一般来園者へのアンケートは、かなたけの里公園で行われている「収穫祭」「年末祭」「ほうけんぎょう」の3つの集客イベントの際に実施した。回答数及びアンケートの概要は以下の通りである。

収穫祭（10/29 天候：雨）回答数 18 人、年末祭（12/16 天候：雨）回答数 35 人、
ほうけんぎょう（1/6 天候：晴）回答数 42 人
総回答数：95人

設問1～8. 自身の属性及び農体験経験の有無について

性別や年齢、職業などについて全7項目の設問、選択回答にて確認する。設問8で農体験の経験の有無を確認する。

設問9～13. 農体験について（農体験経験者）

農体験の経験内容や理由、参加頻度、農体験の魅力や、参加をきっかけとして興味をもったことや今後やってみたいこと、選択回答で確認する。

設問14～15. 農体験について（農体験未経験者）

農体験の未経験者に、今後参加したい農体験や希望する参加の頻度を、選択回答で確認した。

設問16～19. 農業・農地に期待する役割、公園の印象

農業・農地に期待する役割を選択回答で確認する。また、公園の印象を5段階で確認する。最後に、その他の意見や感想について記述式で確認する。

かなたけの里公園 アンケートご協力をお願い

本日は、かなたけの里公園にお越しいただきありがとうございます。以下のアンケートに是非ご協力ください。

あなた自身についてお伺いします。あてはまるものに○をつけてください。

事務処理欄

- 1) 性別 1. 男性、 2. 女性
- 2) 年齢
1. 20歳未満 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
- 3) 職業
1. 農家 2. 会社員 3. 公務員 4. 自営業 5. 専門職 6. 専業主婦(夫) 7. 学生
8. 教師 9. パート・アルバイト 10. 無職 11. その他()
- 4) お住まい () 内には町名を記載ください。例(町名:金武)
1. 西区 2. 早良区 3. 城南区 4. 中央区 5. 南区 6. 博多区 7. 東区
- (町名:) 8. その他(県 市町村 区)
- 5) どのようにしてここまでお越しになりましたか?
1. 自動車 2. バイク 3. 自転車 4. 徒歩 5. 公共交通 6. その他()
- 6) かなたけの里公園は何回目のご来園ですか?
1. はじめて 2. 2～9回 3. 10～19回 4. 20回以上
- 7) かなたけの里公園にどのような期待をお持ちですか?(複数回答可)
1. 公園内での自然体験 2. 家族や友人との交流 3. 農業に関する知識の学習
4. 動植物とのふれあい 5. のんびり休憩 6. 子供の自然体験
7. 農作業による健康増進 8. 地域の行事やイベントへの参加
9. その他()
- 8) これまでに農体験に参加したことはありますか?
1. はい、 2. いいえ
- 8)で「はい」と回答した方にお伺いします。「いいえ」と答えた方は16)以降を回答ください。
- 9) どのような農体験ですか?(複数回答可)
1. 自身が農家 2. 親戚や知人の農家の手伝い 3. 自宅で家庭菜園 4. 農業ボランティア
5. 市民農園の利用(貸し農園利用) 6. 観光農園の利用(ブドウ狩り等)
7. 旅行社によるグリーンツーリズム 8. オーナー制農地での農作業 9. 地域のイベント等
10. 学校や職場での実習・農業体験 11. その他()
- 10) 農体験に参加した主な理由は何ですか?(複数回答可)
1. 農作業を体験する 2. 農村集落を訪問 3. 自然環境を体験 4. 田園風景を眺める
5. 植物や動物を観察 6. 農家の人と交流 7. 体を動かせる 8. 同じ趣味の人々と交流
9. 家族や知人と過ごす 10. 家族や知人を農体験に誘える 11. 身内や知人に誘われた
12. 珍しいことに挑戦できる 13. なんとなく面白そう 14. 農業を学習
15. 農体験できる場所が好き 16. その他()
- 11) かなたけの里公園ではどのような農体験に参加しましたか?(複数回答可)
1. 収穫のみの体験 2. 大豆づくり体験 3. ソバづくり体験 4. ムギづくり体験
5. 米づくり体験 6. ブドウ栽培体験 6. 農業体験農園 7. 里の暮らし体験
8. 参加したことがない

12) 農体験の中で、あなたが魅力的だと感じたことはどのようなことですか？（複数回答可）

1. 農体験そのもの 2. 動植物や土に触れること 3. 田や畑が広がっていること
 4. 遠くに見える山々 5. 静かな田園環境 6. 鳥や虫の鳴き声
 7. 体を動かせること 8. 参加者との交流（家族） 9. 地元農家の方との交流
 10. 農業についての知識を得ること 11. 農業以外についての知識を得ること
 12. その他（ ）

13) 農体験に参加したことがきっかけで、あなたが興味をもったことや、今後やってみたいと思ったことはありますか？（複数回答可）

1. 施設や地域で行われている四季の祭事 2. 施設や地域での散策・ウォーキングイベント
 3. 森林の間伐などのボランティア活動 4. 収穫物を使った食事会・宴会
 5. 収穫物を使った料理教室 6. 動植物の観察・学習会 7. 農業に関する学習会
 8. 地域の人との交流会 9. その他（ ）

8)で「いいえ」と回答した方にお伺いします。

14) あなたは、今後どのような農体験に参加したいですか？（複数回答可）

1. 収穫のみの体験 2. 野菜づくり体験 3. 自宅での家庭菜園 4. 市民農園（貸し農園利用）
 5. 観光農園（ブドウ狩り等） 6. 旅行社によるグリーンツーリズム 7. 農業ボランティア
 8. オーナー制の農地での農作業 9. 学校や職場の実習・農業体験 10. 地域のイベント等

15) どのような頻度で参加したいですか？（1つのみ）

1. ほぼ毎日 2. 週に数回程度 3. 月に数回程度 4. 年に数回程度 5. 収穫期のみ
 6. 数年に1回程度 7. その他（ ）

最後に、皆様にお伺いいたします。

16) 農業・農地にどのような機能や役割を期待しますか。あてはまるものを3つまでお選びください。

1. 食育等の教育機能 2. 地域の伝統・文化の継承 3. 自然環境の保全
 4. 地域コミュニティの場 5. 災害時の避難場所などの防災機能 6. 地域産業の活性化
 7. 良好な田園景観の形成 8. 新鮮で安全な農畜産物の供給 9. 潤いや安らぎの提供
 10. レクリエーションの場 11. 農業に対する関心の喚起 12. 特にない
 13. その他（ ）

17) 本日も来園頂き、公園の印象について、以下の5段階から一つお選びください。

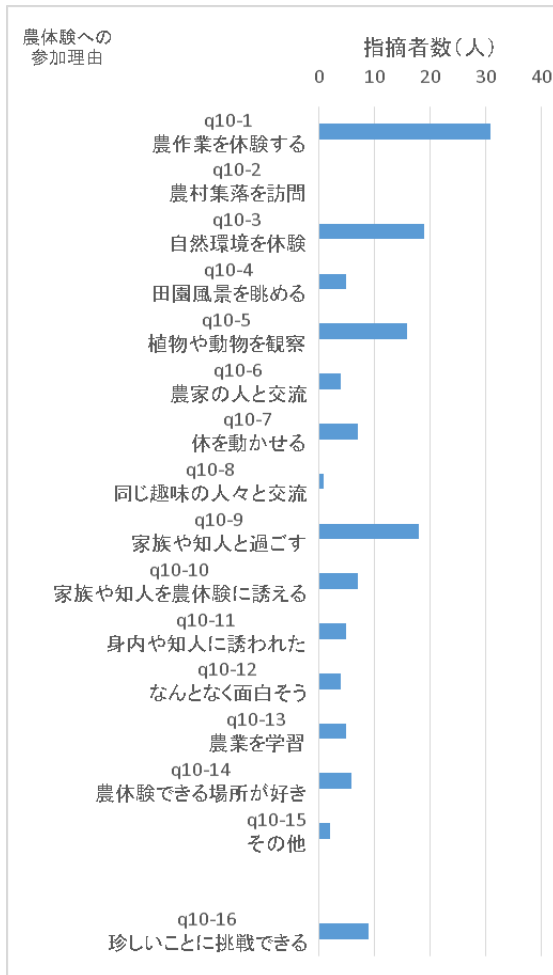
1. 良い 2. やや良い 3. どちらでもない 4. やや悪い 5. 悪い

18) 17)の理由として、「良いと思われたこと」あるいは「悪いと思われたこと」について、具体的なことやもの・場所を以下の欄にお書きください。

19) 最後に、今後公園でやりたいことやなにかお気づきの点など、なんでも構いませんので、ご自由にお書きください。

ご協力いただきありがとうございました。

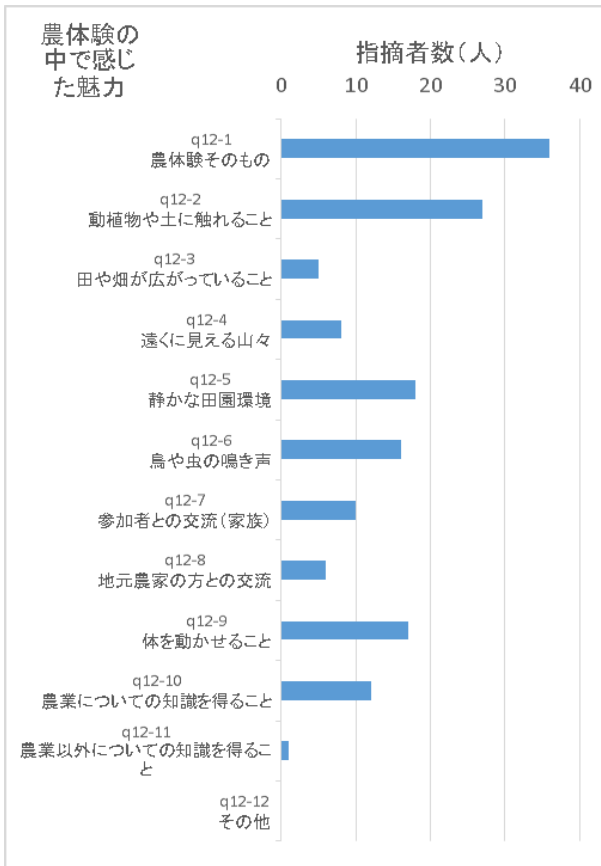
本アンケートで確認できた回答結果の一部を示す。



設問 10
 農体験への参加理由
 農作業を体験するの回答の
 ほか、

- 植物や動物を観察
- 家族や知人と過ごす

の回答数が多い



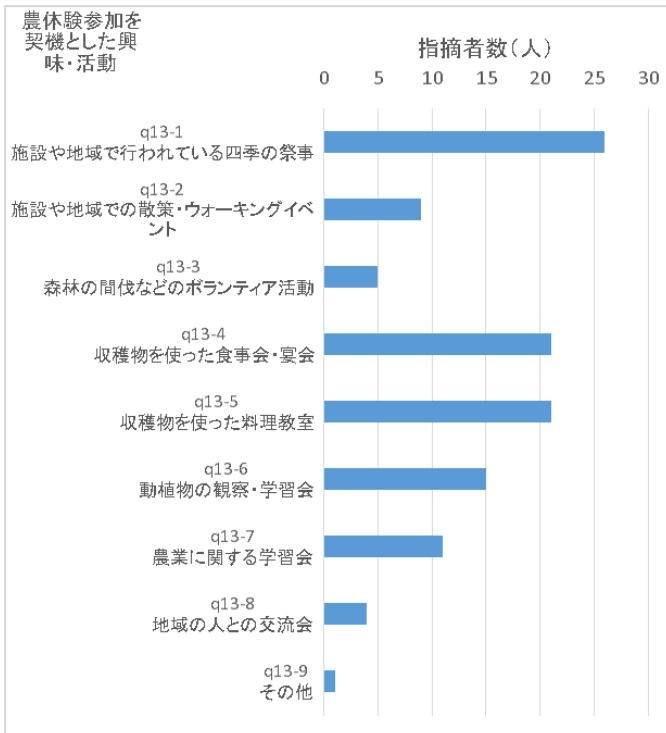
設問 12

農体験の中で感じた魅力

農体験そのものの他に

- ・動植物や土に触れること
- ・静かな田園環境
- ・鳥や虫の鳴き声
- ・体を動かせること
- ・農業についての知識を得ること

の回答数が多い



設問 13

農体験参加を契機とした興味・活動

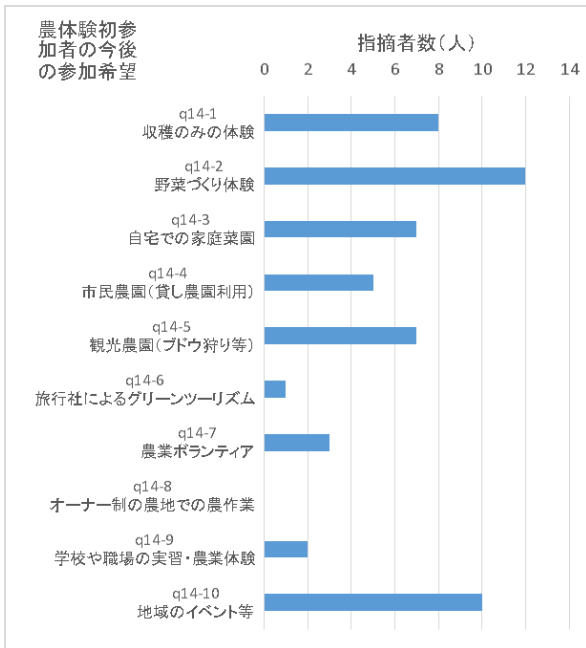
・施設や地域で行われている四季の祭事

・収穫物を使った食事会、宴会

・収穫物を使った料理教室

・動植物の観察、学習会

の回答数が多い

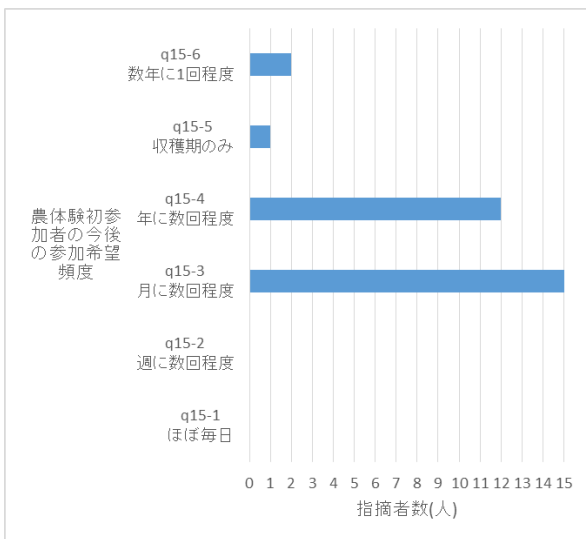


設問 14

農体験未経験者が希望する農体験

- 野菜づくり体験
- 収穫のみの体験
- 観光農園

の回答数が多い



設問 15

農体験未経験者が希望する参加頻度

- 年に数回程度
- 月に数回程度

の回答数が多い

農体験経験者及び一般来園者へのアンケートの結果を、以下のように整理した。

農体験経験者のアンケート結果

- ・地域での新しい農体験に参加する不安要素として、交通手段・知識不足の回答が多いことから、駐車場等の離合集散の場や、野菜づくりに関する指導の体制が必要とされていることが予想される。
- ・地域での新しい農体験に参加する上で、魅力となる施設や設備として、休憩所に次いで、レストラン・飲食スペース、野菜などの直売所といった回答が多い。そのため、地域の農作物を販売する直売所等の併設によって、利用者による地域の作物消費につながる可能性が考えられる。
- ・企業活動により農体験への期待として、ビジネス活動の他に、社員交流、社会貢献活動、福利厚生の回答数が多いことから、これらの企業活動と連携した農体験の取組みの検討が、より企業参加を促す可能性があることがわかった。

一般来園者のアンケート結果

- ・農体験への参加のきっかけとなる要素として、農作業への参加そのものだけでなく、自然環境や動植物の観察といった、自然環境への関わりが動機づけとなる可能性がある。
- ・動植物や土に触れること、静かな田園環境、鳥や虫の鳴き声といった、農体験以外に関する、五感に関わる環境の要素が、農体験の魅力向上に寄与する可能性がある。
- ・農体験参加が、施設や地域での祭事に関わるきっかけづくりとなる可能性がある。
- ・農体験未経験者は、栽培までを含めた農体験への参加を希望する傾向がある
- ・農体験未経験者が参加しやすい頻度としては、月に数回以下となる傾向がある。

3. 企業へのヒアリング

福岡市および近郊で活動する企業を中心として、企業ヒアリングを実施し、農体験に関する企業参画の可能性と課題や、実証調査への協力依頼、また、今後に向けた連携との取組み可能性を確認した。ヒアリングを実施した企業は以下の通りである。

表 3-1 ヒアリングを行った企業一覧

	業種・概要
A社	○複数の事業者による共同体 複数の企業が連携して、自然体験教育・研修・人材育成等に取り組む共同体。かなたけの里公園と定期的な情報交換を実施し、連携イベントの開催を検討している。
B社	○サービス業（ソーシャルメディア） ソーシャルメディアやシェアリングエコノミーに注力した、社会課題解決型の事業を実施。SNSを活用した、着地型観光による地域おこしプログラムを実施している。
C社	○サービス業（施設運営等） 商業施設・公共施設等の運営管理・各種イベントの企画・制作・実施等を行っている。金武校区近隣の大型商業施設の運営管理に関わる。
D社	○サービス業（ソーシャルメディア） Webに関連したイベントやクリエイター育成を支援する取組み等を中心としたWebサービスを実施。
E社	○サービス業（飲食業） 福岡市内中心地で営業する個人経営の飲食店
F社	○不動産業 福岡を中心として、都市開発、住宅開発、オフィス・商業施設の開発・運営、ホテル運営等幅広く実施。金武校区近隣の大型商業施設の開発・運営企業。
G社	○サービス業（販売業） 西日本を中心に369店を展開する家具・日用品・園芸用品等を幅広く販売する事業者
H社	○建設業・販売業 緑地の施工や管理、造園資材の販売を全国的に展開
I社	○サービス業（販売業） 衛生陶器・住宅設備機器を製造するメーカー。企業支援による社員ボランティア活動や、社会貢献事業を実施している。
J社	○サービス業（映画・音楽・書籍等） 店舗・WEB等の幅広い分野で、映画・音楽・書籍を提供。 店舗及び駐車場を使い、他業種と連携した集客イベント等も実施している。
K社	○企業サークル団体（複数の事業者で構成） 福岡市内の建築設計会社・コンサルタント会社を中心とした、複数の事業者の交流会。社員交流や研修、人材育成を目的として、定期的な勉強会を開催。
L社	○サービス業（販売業） 関西を中心に、大型百貨店の開発・運営を東京・福岡に展開する。関連会社で、遊休地等を使った無農・有機栽培による野菜を店舗で販売する事業を実施している。

各企業ヒアリング結果の概要は以下の通りである。

A社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・参加の可能性が高いと考えられる構成企業及び担当者を紹介する

②農体験参加の課題

- ・コミュニティの場や社員研修等の機会は様々な企業から求められてる。かなたけの里公園や周辺農地という、場を提供できることは非常に重要である

③実証調査への協力

- ・参加の可能性が高いと考えられる構成企業及び担当者を紹介する

④今後の連携

- ・継続的に情報交換をしながら、協力できる事業者とのマッチングに協力していく

B社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・体験型のプログラムとしてサービス事業を実施しており、その一環として位置付けすることは可能

②農体験参加の課題

- ・事業として行っており、予算計画等や対応の体制を検討する必要がある。また、少人数の決行を推奨している

③実証調査への協力

- ・今年度の実施は難しい

④今後の連携

- ・金武校区の遊休地を活用したプログラムの検討は継続的に考えてみたい。

C社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・施設利用者に向けて実施しているかなたけの里公園での農体験に関しては、今後も継続していきたい。事業者としては、企業ファンの獲得・他商業施設との差別化・地域貢献を成果と捉えている

②農体験参加の課題

- ・顧客サービスとしての農体験実施に関しては、年度ごとに予算が決まっており、実施内容の差違が生まれる。また、顧客サービスとして実施する以上、当日の対応や連絡調整に関しては、参加者の不満が出ないような体制づくりが必要

③実証調査への協力

- ・今年度はこれまで継続的に実施していた収穫体験に加えて、月1回程度参加の栽培体験を実施したい

④今後の連携

- ・これまでの顧客サービスとしての農体験は継続していく
- ・今年度の調整は難しいが、関連企業とともに、社員の福利厚生としての農体験参加（農業体験農園の方式）を検討してみたい

D社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・室内での業務がほとんどであるため、レクリエーションを目的としたリアルな体験となる農体験は、福利厚生としての参加可能性がある。また、社員交流の場としても効果的である。社内でのサークル活動としても参加可能性がある

②農体験参加の課題

- ・社内調整等があり、早急には実施できない

③実証調査への協力

- ・今年度の実施は難しい

④今後の連携

- ・活動への参加や意見交換を継続していきたい

E社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・農地で栽培した野菜を使った、商品の提供や新規メニューの開発を考えてみたい
- ・アルバイトスタッフ等も一緒に参加して、レクリエーションの一環として考えたい

②農体験参加の課題

- ・飲食店のため、休祝日での参加が難しい

③実証調査への協力

- ・農業体験農園方式の体験に参加

④今後の連携

- ・今年度の成果を踏まえ、継続的な参加が可能かを検討する
- ・様々な野菜づくりを学んでいく中で、店舗で提供しやすい品種を選びながら、畑づくりを拡大させていくようなイメージを持っている

F社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・サークルのような個人個人での参加や、社員研修として行う可能性はある
- ・奉仕活動の一環として、関係先との連携の可能性を探ることもあるのではないかと
- ・住宅メーカーや福祉施設との連携の可能性は高いと考える

②農体験参加の課題

- ・企業としては採算性を確保するため、事業で行うことは難しい
- ・参加を生み出すきっかけづくりや、情報発信が重要

③実証調査への協力

- ・今年度は難しい

④今後の連携

- ・今後、社員研修での参加可能性を検討していく

G社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- 他の事業者の店舗との差別化や企業ファンの獲得のために、顧客サービスとして農体験を実施していきたい
- 店舗で模擬的に講習会形式で実施するか、実際の農地を活用して定期的に体験参加型で実施するか等、様々な選択肢を検討したい
- このほかにも、農機具や種苗・肥料等に関する専門的な知識を実体験として深めるための社員研修としての実施も検討したい

②農体験参加の課題

- プログラムの実施内容と客層の絞り込み、予算計画等、実施する上で検討する項目が多くあり、早急な実施は難しい

③実証調査への協力

- 今年度は難しい

④今後の連携

- 今年度事業計画を作成し、次年度に具体的に実施していきたい

H社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- 管理しているマンションの住民を対象としたツアー型の農体験等は、住民サービスとして有効。

②農体験参加の課題

- 実施にあたっては、市場調査やモデルケース等を作る必要がある

③実証調査への協力

- 今年度は難しい

④今後の連携

- 今後も情報交換を続けていきたい

I社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・ 自社商品のPRや活用に向けた取組みが見込まれば、参加の可能性はある
- ・ 複数の企業が協働で参加する仕組みがあれば、情報交換や営業活動の場としての魅力は十分にある
- ・ 企業支援による社員ボランティア活動での参加は可能性が高い

②農体験参加の課題

- ・ 企業の事業としての参加は現在のところ難しい

③実証調査への協力

- ・ 今年度は難しい

④今後の連携

- ・ 企業支援による社員ボランティア活動での参加可能性は高い

J社

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・ 共同作業による親睦や、交流会での食材提供等を目的として実施が検討できる
- ・ 都市近郊の課題解決の取組みに直接参加することが、研修として位置付けられる

②農体験参加の課題

- ・ 参加メンバーの抽出と予算確保の調整が難しい

③実証調査への協力

- ・ 農業体験農園方式の体験に参加

④今後の連携

- ・ 今年度の成果を踏まえ、継続的な参加が可能かを検討する

※福岡市スタートアップ事業の起業相談・人材マッチングのブースで3社協議を実施
福岡市スタートアップカフェ：福岡市が事業として実施する、起業の準備や相談ができる。様々な業種、業態の開業、操業を志す人々が集い、交流し合う場所を目指しており、2014年10月に開設以来、起業者数が100を超えている。主な機能としては、起業相談、イベント開催、人材マッチング等。

K社、**L社**

【ヒアリング結果】

①地域の農体験参加の可能性に関して

- ・農作物や加工品を販売、PRしたい事業者、バイヤーや飲食業関連の事業者を集め、両者をマッチングさせるイベントに、地域の人に参加できる可能性がある
- ・地域などの課題解決をテーマとしたWSが定期的に行われている。そのテーマに金武やかなたけの里公園、今回の事業展開等を挙げることでできるかもしれない
- ・K社との連携可能性としては、移動店舗を使ったPRイベントや、ロードサイド店舗での出張イベント等が考えられる
- ・L社との連携可能性としては、施設で体験型イベント等を実施する中で、かなたけの里公園のPRにつながる活動を行ったり、また、森林セラピー等のセットプログラム等があり得るかもしれない

②農体験参加の課題

- ・地域の農家の人達がもっと積極的に特産品の開発やPRイベント等を実施し、実績を作っていないと、現状維持では企業との連携は難しいかもしれない。地域が主体となり、公園や企業が支援するという関係となることが望ましいと思われる
- ・今後の事業展開が、将来像やイメージとして共有できたほうが、より具体的な提案やマッチングする企業の紹介がしやすい
- ・公園のイベントと連携するとしても、普段公園にどのくらいの人数が来るのか、イベントだと何人の来場実績があるのか等の数値化されたものでPRできると良い

③実証調査への協力

- ・今年度の協力は難しい

④今後の連携

- ・事業展開の将来像等をより具体化した上で、連携の可能性を広げていきたい。

表 3-2 ヒアリング成果

	業種及び企業の概要	地域の農業や農体験への参加可能性	地域の農業や農体験への参加の課題	実証調査への参加	今後の連携	総括
A社	複数の企業の共同体 中山間地で企業連携による自然体験などを実施	構成企業や協力企業の中で、参加可能性の高い企業・団体を継続的に紹介していくことが可能	企業として農体験へ参加する事業者は非常に多いが、関係者の調整をマネジメントする仕組みが必要となる	○ 企業・団体紹介として継続的に連携	○ 継続的に連携し、農体験への参加企業を紹介可能	農体験参加の可能性がある企業の紹介が可能であり、継続的な連携が見込まれる
B社	サービス業（ソーシャルメディア） SNS を介した着地型観光による地域振興を実施	社員の余暇活動として、福利厚生の一環として参加する可能性はある	農体験の具体的な内容や効果等の検証を含めて、社内で協議する必要があり、現時点での参加は難しい	△ 今後の検討が必要	△ 今後の検討が必要	事業化に向けて、地域の体制を整える必要がある
C社	サービス業（商業施設の運営管理） かなたけの里公園近隣の大型商業施設のイベント企画運営を実施	顧客サービス（企業リピーターの獲得）や地域貢献事業として参加できる。また、グループ関連企業で福利厚生としての参加も検討は可能	年度で事業予算が異なるため、農体験への参加形態が毎年変わる可能性がある。顧客サービスとして実施する際は、取組み毎に受付や案内が定まらないと実施できない。	○ 顧客サービスとしての収穫体験及び定期参加の栽培体験	○ 顧客サービスに加えて、福利厚生の可能性もある	地域協働での農体験に積極的に参加し、継続性も高いが、内容は年度の事業予算に左右される
D社	サービス業（ソーシャルメディア） Web に関連したイベントやクリエイター育成を支援する取組み等を展開	SNS を介して地域と都市住民を体験型プログラムで繋げる事業を実施しており、その一環として連携の可能性はある	事業として実施することとなるが、予算計画や対応の体制などを受け皿となる農家との直接的な調整が必要となる	△ 事業として検討可能であるが、協議に時間が必要	△ 協議・調整が必要	福利厚生としての実施可能性が残る
E社	飲食店 福岡市中心部に位置する個人経営の飲食店	商品開発や食材の獲得、また、社員のレクリエーションの一環としても実施が検討される	作業日の十分な確保が難しい	○ 農業体験農園の方式で参加	○ 継続的な参加が見込める	飲食業の一環として継続的な参加が見込める
F社	不動産業 九州内の大型商業施設や、都市開発、住宅開発、オフィス開発を展開	顧客サービスの一環や、農機具や肥料・種苗等の自社商品のPR・活用、また、農に関する専門知識の獲得を目指す社員研修など、様々なかたちで参加の可能性がある	ターゲットとする顧客層の特定と事業計画の立案などを、社内で協議する必要がある。	△ 今年度は難しいが次年度以降は可能性あり	○ 今年度に協働で事業計画を立て、次年度に実施可能	次年度以降には、社員研修としての農体験に参加可能性を検討する
G社	サービス業（販売業） 西日本を中心に 369 店舗を展開するホームセンターを運営	社員研修や福利厚生の一環として実施の可能性はある。また、協力企業として、住宅メーカーや福祉施設等の紹介は可能	参加するきっかけづくりや情報配信が必要となる	△ 次年度以降は可能性あり	○ 社員研修や福利厚生の一環としての参加が見込まれる	次年度以降には、顧客サービス、広報活動、社員研修などの様々な形態での農体験に参加可能性が高い
H社	建設業（販売業） 緑地の施工や管理、造園資材の販売を全国的に展開	緑化資材等の商品PRが見込まれれば、参加の可能性はある	農体験の具体的な内容や効果等の検証を含めて、社内で協議する必要があり、現時点での参加は難しい	△ 今後の検討が必要	△ 今後の検討が必要	現時点での参加は難しいが、社内での協議は可能
I社	サービス業（販売業）・建設業 衛生陶器・住宅設備の販売・設置を全国的に展開	自社商品のPR・活用に向けた参加の可能性はある。企業支援による社員のボランティア活動としては参加が可能	事業としての参加は現時点では難しいが、企業支援による社員のボランティア活動としては参加が可能	△ 今年度は難しいが次年度以降は可能性あり	○ ボランティア活動として関わりの可能性がある	企業支援による社員ボランティア活動として、希望者が参加することは可能
J社	企業サークル団体 市内の設計会社を中心とした事業者の交流会	共同作業による親睦交流をきっかけとして、企業間の情報交換や事業を生み出すきっかけとなればよい	参加メンバーの体制と予算の確保に調整が必要となる	○ 農業体験農園の方式で参加	○ 継続的な参加が見込める	企業間のコミュニケーションとして継続的に参加を検討する
福岡市スタートアップカフェ（K社、L社）	K社：サービス業（映画・音楽・書籍等） 様々な分野で映画・音楽・書籍を提供 L社：サービス業（販売業） 大坂を中心に、大型百貨店の開発・運営を東京・大阪に展開	地域の人とバイヤーや飲食店事業者をマッチングさせるイベントを通じて、地域産物のPRが可能かもしれない 地域活性化をテーマとした定期的なWSの対象とすることで、さまざまな意見を集めることができるかもしれない	地域の人が積極的に実績を作っていくことが、企業との連携を生み出しやすくなると思われる 事業展開の将来像やイメージがあると、具体的な提案や企業の紹介が行いやすくなる	△ 今年度は難しい	○ 企業とのマッチングや企画の提案などで、協力ができる可能性が十分にある	具体的な将来像を設定した上で、地域農家が積極的に特産品PRや商品開発を行う等の展開があれば、企業との連携を生み出しやすい

ヒアリングを通じて、実証調査への協力が確認された企業は以下の通りである。

地域の農地を活用した実証調査への参加企業

- ・本年度の地域の農地を活用した、実証調査に参加可能な企業として、C社（顧客サービスとしての収穫体験及び定期参加の栽培体験）、E社（飲食事業者の食材調達及び商品開発としての農業体験農園）、J社（企業間の交流活動及び福利厚生としての農業体験農園）の3社が確認・調整できた。

継続的な連携を図る参加企業

- ・A社に関しては、引き続き定期的な情報共有の場を設け、農体験への参加が見込まれる企業が継続的に紹介されることとなった。G社に関しては、スケジュール等の調整から本実証調査への参加は難しいものの、農業関連資材の販売を行っている点もあり、企業研究や社員研修、商品PRといった多様な事業活動による農体験への参加が今後は見込まれる。このほか、I社に関しては、次年度以降であれば、社内広報を通じて、希望する社員によるボランティア活動（企業支援有）への参加が可能である。

また、確認された企業ニーズ及び課題は以下の通りである。

企業の多様な参加形態に応じた農体験の企画づくりの必要性

- ・農体験は様々な業種で顧客サービス、企業PR、福利厚生等の多様な事業者ニーズの中で連携の可能性が高いが、事業所内の企画調整に継続的な検討が必要である。
- ・福利厚生や有志によるボランティアとしての参加に関しては、比較的調整しやすいが、あくまで参加者の希望によるものであり、規模や時期等は想定しにくい。多くの企業で、商品PRや社員研修といった形態での参加も見込まれるが、企業内での承認や計画作成が課題となり、参加の難度は高くなる。

地域とのマッチングに向けたマネジメントの仕組みの必要性

- ・受け皿となる地域との調整や信頼関係を構築するための、関係者を調整するマネジメントの仕組みや体制が必要となる。

第4章 市街地縁辺部における農地の活用・保全方策の実証調査

本章では、地域・都市住民・企業連携による農体験実施手法の具体化に向け、地域内の農地において、地域農家及びかなたけの里公園、都市住民及び企業等と連携した、市民参加型の農体験を通じて課題を把握するものである。

1. 参加企業の選定

企業ヒアリング（第3章）の成果より、本実証調査への参加はC社（顧客サービスとしての収穫体験及び定期参加の栽培体験）、E社（飲食事業者の食材調達及び商品開発としての農業体験農園）、J社（企業間の交流活動及び福利厚生としての農業体験農園）の3社と連携して実施することとした。その概要は以下の通りである。

表 4-1 農地での実証調査への参加企業一覧

企業・団体等	参加人数（組数）	希望する参加頻度	参加目的
C社	30 組程度	果樹の収穫体験	顧客サービス
	25 組程度	月 1 回程度の定期参加による栽培体験	顧客サービス
E社	3名	月2～3回程度の自由参加による栽培体験	食材調達 商品開発 余暇活動
J社	10名	月2～3回程度の自由参加による栽培体験	企業間交流 福利厚生 余暇活動

2. 受け入れ可能な農家の抽出および参加の仕組み検討

都市住民・企業と連携した市民参加型の農体験を試験的に行うに向けて、実施場所の選定を地域代表者の協力の下で行った。具体的には、金武校区自治協議会の組織である、かなたけの里公園運営推進委員会と協議を行い、休憩や資機材の保管、駐車場利用といった利便性の面から、かなたけの里公園周辺の農地を候補とした。今回、運営推進委員会から推奨された農地の状況を以下に示した。



図 4-1 実証調査の候補地

表 4-2 実証調査の候補地の現況

候補地	面積	作付状況	その他
候補地①	約 2,000 m ²	ブドウ果樹園	公園の第 7 駐車場に近く、利便性が高い 地域の農家が営む果樹園
候補地②	約 700 m ²	遊休地	公園の駐車場及びトイレと隣接し、利便性が最も高い
候補地③	約 200 m ²	遊休地（耕耘のみ）	公園と隣接するが、見通しの悪い車道と隣接し、安全性にやや問題がある
候補地④	約 1,000 m ²	遊休地（耕耘のみ）	公園から離れており、利便性が低い
候補地⑤	約 700 m ²	水田	公園に隣接し、利便性が高い

なお、候補地選定にあたっては、下記表の工程で地域組織との調整を行いながら、企業及び農地所有者との調整を行った。

表 4-3 地域組織及び農地所有者との協議

日時	協議対象	協議内容	決定事項
7/12	かなたけの里公園運営推進委員会	実証調査の実施について	3つの候補地の選定
7月～9月	各企業・団体	実証調査への協力について	参加企業および人数、農体験の実施手法
8/30	運営推進委員会	参加候補企業及び内容の報告	実証調査実施の農地選定（仮）
8/31	農地所有者	実証調査への協力について	実証調査実施の農地選定（最終決定）

作付状況や利便性、及び参加企業が希望する農体験の内容や参加予定人数に適正な農地として、果樹収穫体験を行う候補地①、栽培体験を行う候補地②を、本実証調査の対象農地とした。また、かなたけの里公園指定管理者が実施している米づくり体験の参加団体と連携し、米づくりの定期栽培体験を候補地⑤において実施するものとした。

表 4-4 参加企業ごとの農体験の内容及び実施時期

企業・団体等	参加人数（組数）	農体験内容	農地	実施時期
C社	30組（95人）	果樹収穫体験	候補地①	9月
C社	25組（87人）	定期栽培体験（冬野菜）	候補地②	10月～1月
E社	2人	農業体験農園	候補地②	9月～1月
J社	10人	農業体験農園	候補地②	9月～1月
H団体	23組（72人）	定期栽培体験（米）	候補地⑤	5月～11月

候補地②は、数年間耕作が行われておらず、現在は草地となっている。そのため、農体験を行うための事前の土づくり（草刈・耕耘・施肥・畝立等）を実施する必要があった。その農体験実施に向けた準備工の内容を以下に示す。

表 4-5 農体験実施に向けた準備工

日時	作業内容	作業人数
8/31	・所有者ヒアリング ・現地状況の確認 ・測量	・地域住民 2 人 ・受託者職員 2 人
9/1	・草刈（草刈機作業）	・地域住民 2 人 ・受託者職員 1 人
9/9	・耕耘 1 回目（耕運機作業）	・地域住民 1 人 ・受託者職員 1 人
9/14	・元肥散布 ・耕耘 2 回目 ・畝立 ・排水路整備	・地域住民 4 人 ・受託者職員 2 人
9/15	・排水路整備 ・マルチング敷設	・受託者職員 5 人
9/17	・降雨後の排水状況確認	・受託者職員 1 人
10/9	・施肥 ・マルチング敷設 ・排水路整備	・地域住民 3 人 ・受託者職員 2 人



作業前状況（8/31）



所有者協議（8/31）



草刈作業状況（9/1）



耕耘作業状況（9/9）



畝立作業状況（9/9）



マルチング作業状況（10/9）

3. 実証調査の実施

実施した実証調査の参加者・対象規模、運営の人員体制等に関する詳細、また、体験実施後の実施農家・企業・参加者のヒアリング成果を収穫体験、栽培体験でそれぞれ整理した。

表 4-6 実証調査実施の際の関係者へのヒアリング内容

実施農家	・ 農体験の成果や感想 ・ 継続の意思 ・ 今後の継続や拡大に向けた課題
企業	・ 農体験の成果や感想 ・ 体験の満足度 ・ 今後の継続や拡大に向けた課題
参加者	・ 体験の満足度 ・ 他に取組みたい活動等

・ 収穫体験の実施

①果樹（ブドウ・イチジク）収穫体験

【参加企業】：C社

商業施設・公共施設等の運営管理・各種イベントの企画・制作・実施等を行っている企業

【参加者人数】：30組（95人）

【実施場所】：候補地①

【実施日】：9/9 計1日

【収穫量等】：1組あたり ブドウ（ベリーエー）1kg イチジク2個

【人員体制】

現地指導 地域住民（所有者）1人 受託者職員1人

受付・現地誘導 参加企業職員4人 受託者職員1人

【参加費】：1組あたり 1,000円

【参加費設定】：実施農家より提示（市場価格と同等程度）。

本実証調査の収支には含まれない（企業より農家への直接支払）。また、参加企業へ向けた企画提案費用も含まれない（今回は事業費より支出）。



体験の様子

実証調査実施時の関係者へのヒアリング結果

実施農家	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・ B級品も収穫してもらえてよかった ・ 収穫したものを自分達で出荷するよりは、作業が少し楽かもしれない ・ タケノコ等、他の作物もこのようなかたちで消費できると助かる
	継続の意思
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域特産品のPRの場として効果的なので、今後も続けていきたい ・ 他の作物を使った収穫体験も試してみたい
	今後の継続や拡大に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資材、道具類の準備など数にも限りがあるので、公園で行ってもらえると助かる ・ 車を停めたり、受付をする場所が少ないから、公園と協力できると助かる ・ 企業との調整や参加者の受付、案内は自分だけではできないかもしれない ・ 管理作業にもぜひ参加してほしい
企業	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者に喜ばれるので嬉しい ・ 企業の地域活性化事業としても、地域の生産物消費に貢献できて良い
	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との直接のやり取りなどの調整が難しいが、収穫だけだと少ないので助かる ・ 今後も1年の間に異なる作物で複数回実施したい
	今後の継続や拡大に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天候や作物の生育状況などによる、日程変更調整や参加者への連絡に手間がかかることがある
参加者	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特産品が収穫できて良かった ・ ブドウ狩りは初めてだったので、いい経験になった ・ また参加したい
	不満であった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地までの道のりがもう少し安全だと良い（小さい子どもがいるので） ・ はじめてだったので集合場所までのアクセスが分かりにくかった
	今後の継続的な参加に関して
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に収穫できるものがあれば参加したい ・ いろいろな体験の企画を組んでいただけたらうれしい

②冬野菜栽培体験

【参加企業】：C社

商業施設・公共施設等の運営管理・各種イベントの企画・制作・実施等を行っている企業

【参加者人数】：25組（合計87人）

【実施場所】：候補地②

【実施日】

10/21,22：播種 11/12：間引き・追肥 12/10間引き・追肥 1/6,28：収穫

【栽培作物（収穫量）】

1組あたり

ダイコン（5本） カブ（7個） ホウレンソウ（7株） ミズナ（5株）

チンゲンサイ（3株） カツヲナ（10枚） リーフレタス（2株）

【人員体制】 1日あたり

現地指導 地域住民（所有者）1人 受託者職員1人

受付・現地誘導 参加企業職員1人 受託者職員1人

【参加費】：1組あたり 2,000円（下表の合計を25組で分割）

（参加費概算内訳）

費用項目	単位	数量	単価	金額	備考
企画提案費用	式	1	-	-	実証調査事業費より支出
栽培管理人件費	人	0	0	0	参加者による栽培管理
栽培指導人件費	日	2.5	10,000	25,000	半日×5回
種苗代	式	1	1,000	1,000	種のみ
肥料・資材代	式	1	24,000	24,000	肥料、マルチングシート等
合計	式	1		¥50,000	



体験の様子

実証調査実施時の関係者へのヒアリング結果

実施農家	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の大変さや収穫の喜びなど参加者に伝えられてよかった ・自分だけでは、栽培指導の仕方などが分からないので、公園と協力できてとても助かった ・ずっと耕作できていなかった畑なので、とても助かる
	継続の意思
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も是非続けてほしい
	今後の継続や拡大に向けた課題 <ul style="list-style-type: none"> ・公園に支援してもらいながらであれば、自分でも栽培指導ができるかもしれない ・体験の案内や受け入れ体制、参加者（企業）の受付などどうやったら良いかわからないので、公園に協力してもらえると助かる ・資材の調達を公園など第三者の協力がほしい
企業	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に喜んでもらえた
	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験と比較したとき、栽培体験のほうが参加者の満足度は高い
	今後の継続や拡大に向けた課題 <ul style="list-style-type: none"> ・今回の体験では、天候等による日程の変更等があり、参加者への連絡案内に手間が多かったので、簡潔に行えるよう検討が必要 ・受付案内をする場所や駐車場は、公園を利用しないと準備できない
参加者	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに種まきから収穫までの野菜づくりを学べる良い経験となった ・野菜の育てる楽しみや大変さを知ってよかった ・子どもたちがとても楽しそうにしていたので良かった
	不満であった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・天候にあまり恵まれなかったのが残念だった
	今後の継続的な参加に関して
	<ul style="list-style-type: none"> ・日程が決まっているので、参加できない回があったり、天気が悪い回があったりと、イベントに参加する難しさがわかった

③米づくり体験

【参加企業】：H団体

かなたけの里公園指定管理者、地域の農家と連携し、園外の水田における、市民参加型の手作業による米づくり体験を実施している市民団体

【参加者人数】：23組 72人

(H団体：12組 35人 一般参加 11組 37人)

【実施場所】：候補地⑤

【実施日】：月2回程度、設定された日程で参加

【栽培作物・量】：1組あたり

管理作業への参加日数等に応じて、その年に収穫できたお米を分配

(精米前で、合計 250kg 程度)

【人員体制】 1日あたり

現地指導 地域住民(所有者) 1人

受付・現地誘導 受託者職員 1人

【参加費】：H団体 1組 3,000円 一般参加 1組 4,000円

※かなたけの里公園指定管理者の自主事業である米づくり体験と連携しており、参加費は指定管理者が設定している。本実証調査の収支には含まれない。

(参加費概算内訳)

費用項目	単位	数量	単価	金額	備考
企画提案費用	式	1	-	-	実証調査事業費より支出
栽培管理人件費	回	5	4,000	20,000	畦草刈等
栽培指導人件費	回	6	5,000	30,000	
機械作業	式	1	20,000	20,000	荒起こし・耕耘・代かき等
種苗代	式	1	12,000	12,000	
肥料・資材代	式	1	8,000	8,000	
合計	式	1		¥90,000	



体験の様子

実証調査実施時の関係者へのヒアリング結果

実施農家	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・面積も狭く、非効率な中で、高齢になった自分達だけでは耕作が難しいため、このようなかたちで協力・活用してもらえると助かる
	継続の意思
	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま続けてもらいたい
	今後の継続や拡大に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・指導に作業手間がかかるため、公園との連携が不可欠
企業	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場やトイレなどの設備が近くにあるので助かる ・子どもたちにとって環境の学びの場となっていることが良かった
	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の方に喜んでもらえた
	今後の継続や拡大に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大するにあたり、地域との細かな調整・協議が必要 ・受付案内する場所や駐車場など、公園との連携が必要 ・水管理に地域との連携が必要
参加者	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・お米の育てる楽しみや学びがとても良い経験になった ・今まで食べるだけだったお米の成長を目で見ることができたことは貴重な体験だった ・体験の中で農機具を使用することがあり、機械のありがたみが分かった
	不満であった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕方ないことであるが、公園のイベントが重なると駐車場が遠くなる
	今後の継続的な参加に関して
	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な体験だから、今後も続けたい。できれば、団体の方に登録してもらって積極的に参加していきたい

④農業体験農園

【参加企業】：E社

福岡市内中心地で営業する個人経営の飲食店

【参加者人数】：2人

【実施場所】：候補地②

【実施日】：月1回の栽培講習会への参加

作業は9月～2月までの期間で自由な日程で参加

【栽培作物・量】：1組あたり

ニンジン 16株 ホウレンソウ8株 シュウギク4株 レタス4株 ジャガイモ 16株
ダイコン26本 キャベツ 10株 カブ29株 コマツナ4株 チンゲンサイ5株
カツونا2株 ミズナ2株 ブロッコリー10株 ハクサイ 10株

【人員体制】 1日あたり

現地指導 地域住民（所有者）1人

受付・現地誘導 受託者職員1人

【参加費】

1組あたり 10,000円

（参加費概算内訳）

費用項目	単位	数量	単価	金額	備考
企画提案費用	式	1	-	-	実証調査事業費より支出
栽培管理人件費	人	0	0	0	参加者による栽培管理
栽培指導人件費	日	0.5	10,000	5,000	利用期間の合計※
種苗代	式	1	3,000	3,000	種・苗
肥料・資材代	式	1	2,000	2,000	肥料、マルチングシート等
合計	式	1		¥10,000	

定期的な栽培講習会の必要経費に関しては、かなたけの里公園が開催するものに
参加したため、本実証調査の収支には含まれない



体験の様子

実証調査実施時の関係者へのヒアリング結果

実施農家	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の大変さや収穫の喜びなど参加者に伝えられてよかった ・多品種の野菜づくりに関して、専門的な指導内容が必要となるから、公園の講習会や指導員と連携できて良かった
	継続の意思
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も是非続けてほしい
	今後の継続や拡大に向けた課題
企業	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・作った野菜で新しいメニュー開発ができて楽しかった
	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・休祝日は、お店が開いているので、参加できないため、参加の仕組みを公園に提案・検討してもらえて良かった ・専門の講師に教えてもらったので初めてでも野菜づくりをすることができ、良かった
	今後の継続や拡大に向けた課題
参加者	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの手で野菜づくりの体験ができて良かった ・こんなに多く収穫できるとは思わなかった ・野菜づくりの知識が増えて、今後の事業の可能性が広がりそう
	不満であった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・水やりの際、水場がもう少し近くだとよい
	今後の継続的な参加に関して
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら参加できたから、できれば続けてほしい 	

⑤農業体験農園

【参加企業】：K社

福岡市内の建築設計会社・コンサルタント会社を中心とした、複数の事業者の交流会。社員交流や研修、人材育成を目的として、定期的な勉強会を開催

【参加者人数】：2人

【実施場所】：候補地②

【実施日】：月1回の栽培講習会への参加

作業は9月～2月までの期間で自由な日程で参加

【栽培作物・量】：1組あたり

ニンジン 16株 ホウレンソウ8株 シュウギク4株 レタス4株 ジャガイモ 16株
ダイコン 26本 キャベツ 10株 カブ 29株 コマツナ 4株 チンゲンサイ 5株
カツヲナ2株 ミズナ2株 ブロッコリー10株 ハクサイ 10株

【人員体制】 1日あたり

現地指導 地域住民（所有者）1人

受付・現地誘導 受託者職員1人

【参加費】

1組あたり 10,000円

（参加費概算内訳）：E社実施の農業体験農園と同様



体験の様子

実証調査実施時の関係者へのヒアリング結果

実施農家	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の大変さや収穫の喜びなど参加者に伝えられてよかった ・多品種の野菜づくりに関して、専門的な指導内容が必要となるから、公園の講習会や指導員と連携できて良かった
	継続の意思
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も是非続けてほしい
	今後の継続や拡大に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・多品種の野菜づくりの専門的な指導は、自分だけではできない ・体験の案内や受け入れ体制、参加者（企業）の受付などどうやったら良いかわからないので、公園に協力してもらえると助かる ・資材の調達を公園など第三者の協力がほしい
企業	農体験の成果や感想
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士の日程調整が必要なので、参加の仕組み等を公園に提案・検討してもらえて良かった
	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者を通じて良い企業の交流の場となった ・社員も楽しそうに参加でき、収穫した野菜を使った食事会などもできた
	今後の継続や拡大に向けた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会としても全員が同じように参加できるわけではないため、企業としては新たなサークル活動として、参加を支援する仕組みにするとよさそうである
参加者	体験の満足度
	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜づくりは面白いことがわかった ・楽しく交流できて良かった ・施設や設備が充実しているので、気軽に参加できるところがとても良かった
	不満であった点
	<ul style="list-style-type: none"> ・講習の場所と栽培畑までの距離が少し遠かった
	今後の継続的な参加に関して
	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培した野菜をただ持ち帰るだけでなく、あの場で獲れたものを「皆で楽しむ(食べる場)」があると良いと感じた ・講習会の参加者はベテランの方も多いうように感じたので、初心者向けに基礎知識を学べるような会もあると良いと思った

今回、実施した実証調査において、その成果や課題を以下のように捉えた。

①サービス系事業者による顧客サービスとしての果樹収穫体験

- ・地域特産品のPRや、市場に卸しにくいB級品の消費に貢献でき、実施農家も農体験の継続を希望している。
- ・参加者も収穫のみと気軽に参加しやすい取組みであり、季節ごとの他の作物も収穫が希望されている等、リピーターの獲得につながっている。
- ・100名近くの人数が参加するため、案内や資材の準備が実施農家だけでは困難であり、また、駐車場に関しても公園の協力が無ければ確保ができなかった。

②サービス系事業者による顧客サービスとしての野菜栽培体験

- ・農地所有者だけでは耕作が困難で、遊休地となっている畑の活用ができた。
- ・生産の野菜づくりと比較して、指導に手間がかかり、また、案内・指導、資材の準備、駐車場の確保等は公園の協力が必要となる。
- ・野菜を楽しみながら育てられる学習の場として効果が確認できた。
- ・決められた日程での実施は、雨天により日程変更等によって、全日程参加できない参加者もあり、また企業からの連絡周知に手間がかかった。

③市民団体による市民連携の米づくり体験

- ・農地所有者だけでは耕作が困難で、遊休地となっている水田の活用ができた。
- ・生産の米づくりと比較して、指導に手間がかかり、また、案内・指導、資材の準備、駐車場の確保等は公園の協力が必要となる。
- ・活動を通じて市民団体の登録者が増えるなど、団体の活動活性化に寄与した。

④飲食店による農業体験農園

⑤複数企業の交流会による農業体験農園

- ・農地所有者だけでは耕作が困難で、遊休地となっている畑の活用ができた。
- ・自由な日程で利用ができるため、休祝日に営業している飲食店や、複数の企業からなる団体にとって、参加日程の調整が行いやすかった。
- ・多品種の野菜づくりに関する、専門的な指導ノウハウが必要となるため、農地所有者だけの実施は難しい。また、資材や駐車場等の確保も公園と連携する必要がある。

第5章 都市・農村交流に向けた活用施策の検討及び課題整理

ここでは、実証調査に参加した地域農家、企業、参加者それぞれの参加形態や意見を総括し、それぞれの課題の整理と、活用施策としての設定を行う。

体験の参加概要及び参加者の主な意見を踏まえた課題、活用施策の設定は以下の通りである。

表 5-1 実証調査の概要・課題・活用施策等の総括表

企業・団体	サービス系事業者	サービス系事業者	市民団体	飲食店	複数企業の交流会	課題
参加人数・組数	30組 95名	25組 87人	市民団体 12組 35名 一般参加者 11組 37名	2人	10人（5企業）	
農体験の種類	果樹収穫体験	定期栽培体験（野菜）	定期栽培体験（米）	農業体験農園		
実施内容	ブドウ・イチジクの収穫体験	6品目の冬野菜程度の播種、草取、追肥、間引、収穫までを設定された日程で参加。 栽培管理：3回 収穫体験：2回	手作業による米づくり体験。代掻、畔塗、田植、草取、収穫、脱穀等を設定された日で参加。 全12回	14種類の秋冬野菜を植え付けから収穫まで自由な日程で参加。 種苗・肥料以外の農具・資材は全て管理者が準備。月1～2回の講習会あり		
参加形態	企業顧客サービス レクリエーション	企業顧客サービス レクリエーション	レクリエーション 環境学習 ボランティア活動	レクリエーション 飲食店の材料確保	福利厚生 企業間交流	
実施農家の意見	<ul style="list-style-type: none"> 案内や資材の準備、駐車場は公園に協力してもらえると助かる PRや呼びかけを企業や公園にお願いしたい B級品も収穫してもらえて良かった 他の作物もこのような形で消費できると助かる。出荷作業と比べると楽かもしれない 管理作業に参加の場があると助かる 	<ul style="list-style-type: none"> 遊休地が耕作できてとても助かった 農業の喜びや苦勞を参加者に伝えられて嬉しい 案内や資材の準備を公園に協力してもらえれば、指導は自分でできるかもしれない 生産用の野菜づくりと比較して、指導に手間がかかる 案内や資材の準備、駐車場は公園に協力してもらえると助かる 	<ul style="list-style-type: none"> 面積も狭く、自分たちでは耕作できないため、協力してもらえるととても助かる 生産用の米づくりと比較して、指導に手間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけでは、多品種の作物の専門的な指導ができないかもしれない 公園の講習会や指導員と協力できてとても助かった 指導に対するサポートがあれば、今後も継続したい 資材の調達など、公園などの第三者の協力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 農家（農地所有者）単独では、参加者の受付・案内ができず、公園の協力が必要 農家（農地所有者）単独では、多品種の野菜の専門的指導ノウハウが無いため、公園の指導員との連携が必要 受付や案内をする場所や参加者のための駐車場やトイレ、水場等の設備を用意するためには、公園と連携する必要がある 	
参加企業の意見	<ul style="list-style-type: none"> 参加者に喜ばれるので嬉しい 地域調整が少ないので助かる、継続しやすい 今後も1年の間に異なる作物で複数回実施したい 日程変更の調整や参加者への案内に手間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫体験と比較して、参加者の満足度は高いようだった 天候等による日程の変更等の、参加者への連絡案内の手間が多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場やトイレが近くにあり、非常に助かる 子ども達にとって、環境の学びの場になった 	<ul style="list-style-type: none"> 参加の仕組み等に工夫が必要なので、公園に提案・検討してもらえて良かった 作った野菜で新しいメニュー開発が出来て楽しかった 専門の講師に教えてもらい、初めてでも野菜づくりができた 	<ul style="list-style-type: none"> 参加の仕組み等に工夫が必要なので、公園に提案・検討してもらえて良かった 参加者を通じて、良い企業の交流の場となった 収穫した野菜を使った、食事が開催できた 	<ul style="list-style-type: none"> どのような参加の仕方があるか等、農体験の具体的なプログラムの作成ができないため、企業への提案する仕組みが必要 農体験に必要な資材が企業では用意できないため、公園や農家との連携が必要
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特産品が収穫できて良かった。他に収穫できるものがあれば参加したい 現地までの道のりがもう少し安全だと良い 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達と一緒に野菜の育てる楽しみや学びがとても良い経験になった 月に1回程度は参加しやすいが、雨天の延期などで都合の合わない日もあった 	<ul style="list-style-type: none"> お米を育てる楽しみや学びがとても良い経験になった できれば、団体に登録して今後も継続したい 	<ul style="list-style-type: none"> こんなに多く収穫できると思わなかった 野菜づくりの知識が増えて、今後の事業の可能性が広がろう 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の施設が充実していたので、気軽に参加できた 野菜づくりは面白いことがわかった 楽しく交流出来て良かった 	<ul style="list-style-type: none"> 主な参加者となる都市住民への参加させるための仕掛けとして、公園だけでなく企業が連携した取組が効果的
活用施策の設定	●企業による顧客サービスとしてのブドウ収穫体験	●企業による顧客サービスとしての冬野菜栽培体験	●市民団体連携によるボランティアとしての米づくり体験	●企業による異業種交流・福利厚生の取組みと連携した農業体験農園	●飲食店による商品開発・材料確保のための農業体験農園	

実証調査の実施農家・参加企業・参加者の意見及び課題から、農体験を通じた都市と農村の交流促進を図るための、農体験型都市公園（かなたけの里公園）の果たす役割や効果に関して、下表のように整理した。

表 5-2 農体験型都市公園の果たす役割・効果

公園が地域農家に果たす役割・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・離合集散の場の提供 ・現地案内等の対応補助 ・参加者への指導ノウハウの提供
地域農家が公園に果たす役割・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・作物や農地の情報提供
公園が企業に果たす役割・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・作業資機材の提供 ・農体験の計画作成
企業が公園に果たす役割・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・企画及び体験用資材の費用 ・企業ニーズの提供

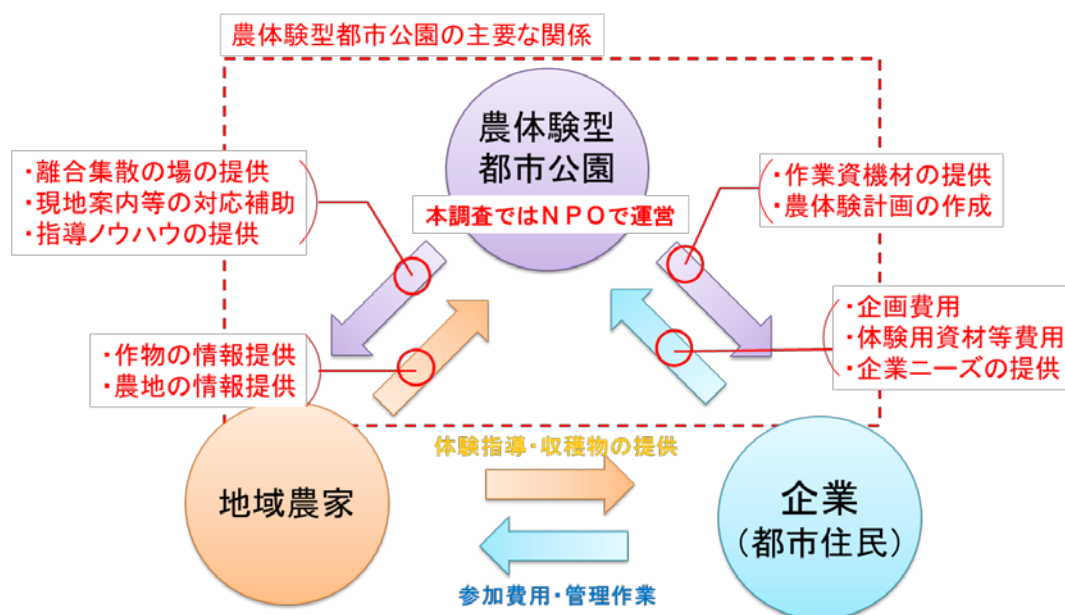


図 5-1 農体験型都市公園・地域農家・企業等に求められる役割

農体験型都市公園が上記役割を果たすことで、地域農家と企業がそれぞれ有する農体験へのニーズや課題を踏まえた、都市・農村の交流を促進させるための活用施策として展開が可能であると考えられる。

第6章 都市・農村共生まちづくりの育成手法モデルの検討

1. 都市・農村共生まちづくりの育成手法モデルの設定

本章では、第4・5章における役割や効果の検証を行い、活用施策毎に整理することで、都市・農村共生まちづくりの育成手法モデルとしての検討を行うものとする。また、活用施策の概要や役割、都市住民や地域農家の関わり等を活動量として、定量的に捉え、標準化することでモデルとしての設定を行うものとした。

参加者単位活動量：農体験への参加者人数の累計^{※1}を、農地の面積で除して標準化した値。
この数値が多い際、都市住民の受け入れが多いと評価する。
農家の単位活動量：維持管理作業・栽培指導人数の合計を、農地の面積で除して標準化した値。生産農業と比較した場合^{※2}に少ないと、農業の負担が少ないと評価した。

※1 参加者人数の累計

同一の農体験の中で、栽培体験のように複数回実施されるものの、全体を通した参加人数。

例) 定期栽培体験(野菜)：第1回70人 第2回60人 第3回58人

第4回60人 第5回77人 全5回分合計325人 (=参加者人数の累計)

※2 生産農業との比較

金武校区の農家へのヒアリングによって、通常の実産農業の活動量を確認し、設定した。
対象とした作物は、米及びカブとした。

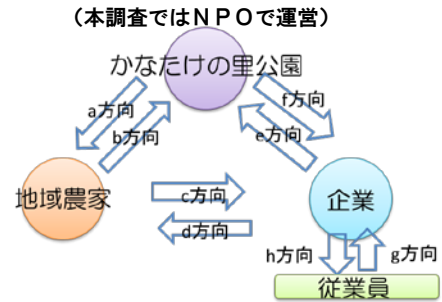
米：0.005人/㎡ (1,000㎡あたり5人工で耕作)

カブ：0.02人/㎡ (1,000㎡あたり20人工で耕作)

<実証モデル①>

活用施策①：企業による顧客サービスとしてのブドウ収穫体験

企業・団体	サービス系事業者
参加組数・人数	30組 95名
農体験の種類	ブドウ収穫体験
参加費	1組 1,000円
実施時期	9月
参加形態	企業顧客サービス レクリエーション
参加者人数の総計	95人
参加頻度	1回
維持管理作業人数の合計	全体：30人（2,000房の管理人数）→1.35人
栽培指導人数の合計	1人
利用面積	全体：1,000㎡（2,000房のうち90房収穫） →45㎡分
参加者単位活動量	2.111（人/㎡）
農家の単位活動量	0.052（人/㎡）



効果	
a方向	離合集散の場の提供、対応補助
b方向	作物・農地の情報提供
c方向	収穫体験指導、収穫物の提供
d方向	体験参加費
e方向	企画・体験用資材等費用（本調査では企画費用は未徴収）、企業ニーズの提供
f方向	作業資材の提供、農体験計画作成
g方向	顧客のリピーター化
h方向	利用案内・受付



ブドウ収穫

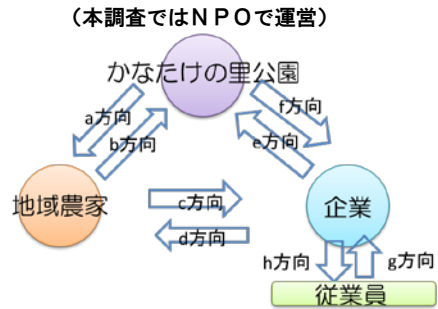


収穫前の道具配布

<実証モデル②>

活用施策②：企業による顧客サービスとしての冬野菜栽培体験

企業・団体	サービス系事業者
参加組数・人数	25組 87人
農体験の種類	定期栽培体験（冬野菜）
参加費	1組 2,000円
実施時期	10月－1月
参加形態	顧客サービス
参加者人数の総計	325人
参加頻度	月1回
維持管理作業人数の合計	10人
栽培指導人数の合計	4人
利用面積	400㎡
参加者単位活動量	0.813（人/㎡）
農家の単位活動量	0.035（人/㎡）



効果	
a方向	離合集散の場の提供、対応補助、指導ノウハウ提供
b方向	農地の情報提供
c方向	栽培体験指導、収穫物の提供
d方向	体験参加費、定期的な管理作業
e方向	企画・体験用資材等費用（本調査では企画費用は未徴収）、企業ニーズの提供
f方向	作業資材の提供、農体験計画作成、種苗肥料の提供
g方向	顧客のリピーター化
h方向	利用案内・受付



講師による作業の説明

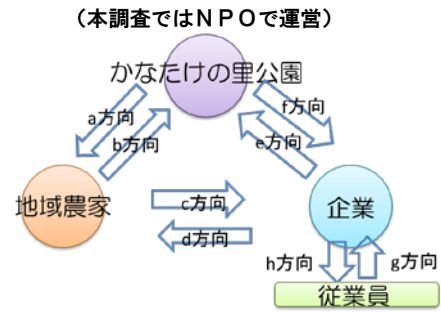


間引きや収穫等の作業

<実証モデル③>

活用施策③：市民団体連携によるボランティアとしての米づくり体験

企業・団体	サービス系事業者
参加組数・人数	市民団体 12 組 35 名 一般参加者 11 組 37 名
農体験の種類	定期栽培体験（米）
参加費	1 組 4,000 円
実施時期	5月－11 月
参加形態	余暇活動、環境学習 ボランティア活動
参加者人数の総計	474 人
参加頻度	設定された日に月2～3回
維持管理作業人数の合計	8人
栽培指導人数の合計	8人
利用面積	700 m ²
参加者単位活動量	0.678 (人/m ²)
農家の単位活動量	0.023 (人/m ²)



効果	
a 方向	離合集散の場の提供、対応補助、指導ノウハウ提供
b 方向	農地の情報提供
c 方向	栽培体験指導、収穫物の提供
d 方向	体験参加費、定期的な管理作業
e 方向	企画・体験用資材等費用（本調査では企画費用は未徴収）、企業ニーズの提供
f 方向	作業資材の提供、農体験計画作成、種苗肥料の提供
g 方向	活動目標の達成
h 方向	利用案内・受付、活動の場の提供



田植え



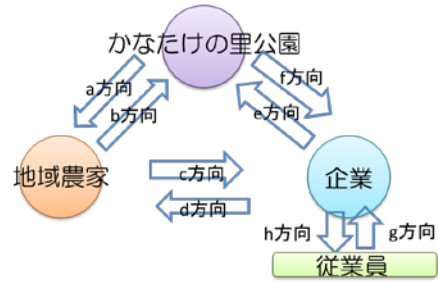
稲刈り、かけ干し作業

<実証モデル④>

活用施策④：企業による異業種交流・福利厚生の一環として連携した農業体験農園

企業・団体	サービス系事業者
参加組数・人数	10人
農体験の種類	農業体験農園
参加費	1組 10,000円
実施時期	9月～2月
参加形態	福利厚生、企業間交流
参加者人数の総計	25人
参加頻度	自由参加で月2～3回 その他に月1回の講習会
維持管理作業人数の合計	1.5人
栽培指導人数の合計	1.5人
利用面積	30㎡
参加者単位活動量	0.833 (人/㎡)
農家の単位活動量	0.010 (人/㎡)

(本調査ではNPOで運営)



効果	
a方向	離合集散の場の提供、対応補助、農業体験農園運営のノウハウ提供
b方向	農地の情報提供
c方向	専門的な野菜づくりの知識 収穫物の提供
d方向	体験参加費、日常的な管理作業
e方向	企画・体験用資材等費用（本調査では企画費用は未徴収）、 企業ニーズの提供
f方向	作業資材の提供、農体験計画 作成、種苗肥料の提供、講習会 の提供
g方向	社員満足度向上、企業間交流 の促進
h方向	福利厚生（余暇活動）



作物の生育状況等の説明

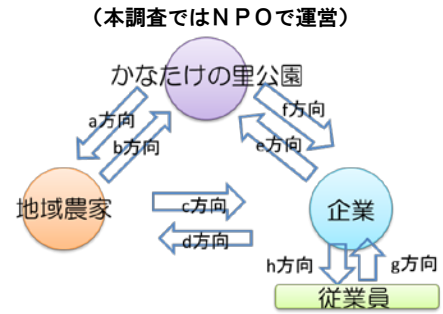


間引き等の作業

<実証モデル⑤>

活用施策⑤：飲食店による商品開発・材料確保のための農業体験農園

企業・団体	サービス系事業者
参加組数・人数	2人
農体験の種類	農業体験農園
参加費	1組 10,000円
実施時期	9月～2月
参加形態	レクリエーション 材料確保・商品開発
参加者人数の総計	12人
参加頻度	自由参加で月2～3回 その他に月1回の講習会
維持管理作業人数の合計	1.5人
栽培指導人数の合計	1.5人
利用面積	30㎡
参加者単位活動量	0.400 (人/㎡)
農家の単位活動量	0.010 (人/㎡)



効果	
a方向	離合集散の場の提供、対応補助、農業体験農園運営のノウハウ提供
b方向	農地の情報提供
c方向	専門的な野菜づくりの知識、収穫物の提供
d方向	体験参加費、日常的な管理作業
e方向	企画・体験用資材等費用（本調査では企画費用は未徴収）、企業二重の提供
f方向	作業資材の提供、農体験計画作成、種苗肥料の提供、講習会の提供
g方向	社員満足度向上、労働
h方向	労働意欲の向上、給与



作業の説明



追肥等の作業

各モデルを比較・分析することで、モデル毎の特徴の把握を行う。比較表を以下に示す。

表 6-1 各実証モデルの比較

企業	サービス系事業者	サービス系事業者	市民団体	複数企業の交流会	飲食店
農体験の種類	果樹収穫体験	定期栽培体験（冬野菜）	定期栽培体験（米）	農業体験農園	農業体験農園
a 方向 公園⇒農家	離合集散の場提供・現地案内等対応補助				
	-	指導ノウハウ提供		農業体験農園運営のノウハウ提供	
b 方向 農家⇒公園	作物・農地の情報提供	農地の情報提供			
c 方向 農家⇒企業	収穫体験指導	栽培体験指導		専門的な野菜づくりの知識提供	
d 方向 企業⇒農家	体験参加費				
	-	定期的な管理作業		日常的な管理作業	
e 方向 企業⇒公園	企画・体験用資材等費用（本調査では企画費用は未徴収）、企業二卒の提供				
f 方向 公園⇒企業	作業資材の提供、農体験計画作成				
	-	種苗肥料の提供		種苗肥料の提供、講習会の提供	
h 方向 顧客（従業員）⇒企業	顧客のリピーター化		活動目標の達成	社員満足度向上	
				企業間交流の促進	労働
i 方向 企業⇒顧客（従業員）	利用案内・受付			福利厚生（余暇活動）	労働意欲の向上 給与
	-		活動の場の提供		
維持管理作業人数合計	1.35 人(按分)	10 人	8 人	1.5 人	1.5 人
栽培指導人数合計	1 人	4 人	8 人	1.5 人	1.5 人
利用面積	45 m ² (按分)	400 m ²	700 m ²	30 m ²	30 m ²
参加者単位活動量	2.111 人/m²	0.813 人/m²	0.678 人/m ²	0.833 人/m²	0.400 人/m ²
農家の単位活動量*	0.052 人/m ²	0.035 人/m²	0.023 人/m²	0.010 人/m²	0.010 人/m²
都市住民の受入れ比較	特に多い	多い	少ない	多い	少ない
生産農業との比較	収穫のみのため、農家の活動量に大きな変化はない	農家活動量：大 指導ノウハウが必要	農家活動量：大 指導ノウハウが必要	農家活動量：小 専門的な野菜づくりの指導技術が必要	農家活動量：小 専門的な野菜づくりの指導技術が必要

*生産農業としての活動量（参考値）米 0.005 人/m² カブ 0.02 人/m²

各実証モデルを比較すると、参加者単位活動量及び農家の単位活動量の比較から、以下の様な特徴が確認された

①企業による顧客サービスとしてのブドウ収穫体験

本事業調査で検証した農体験の中では、最も都市住民の受け入れ量が多い。一方で、栽培管理作業に都市住民が関わらず、また実施農家によると、通常の収穫作業と収穫指導を比較した場合に、大きな作業手間の差違は無いとの意見が確認されたことから、生産農業と農家の活動量はほぼ同じであると言える。

②企業による顧客サービスとしての冬野菜栽培体験

本事業調査で検証した農体験の中では、ブドウ収穫体験、複数企業の交流会による農業体験農園に次いで、都市住民の受け入れ量が多い。農家の単位活動量は、生産農業としての活動量と比較して多く（1.2倍以上）、また、野菜づくりの指導ノウハウも必要となることから、実施農家への負担は大きいと考えられる。

③市民団体連携によるボランティア活動としての米づくり体験

本事業調査で検証した農体験の中では、飲食店による農業体験農園に次いで、都市住民の受け入れ量が少ない。農家の単位活動量は、生産農業としての活動量と比較して多く（4倍以上）、また、米づくりの指導ノウハウも必要となる。

④企業による異業種交流・福利厚生の一環と連携した農業体験農園

本事業調査で検証した農体験の中では、ブドウ収穫体験に次いで、都市住民の受け入れ量が多い。農家の単位活動量は、生産農業としての活動量と比較して低いが、多数の品目（今回の調査では14種類）の野菜づくりに関する専門的な指導ノウハウが必要となる。

⑤飲食店による商品開発・食材確保のための農業体験農園

本事業調査で検証した農体験の中では、最も都市住民の受け入れ量が少ない。飲食店の材料調達や商品開発といった、採算性に関わる事業活動の一環として実施されたため、より効率的な参加がされたことが予想される。農家の単位活動量は、④と同様に、生産農業としての活動量と比較して低いが、多数の品目（今回の調査では14種類）の野菜づくりに関する専門的な指導ノウハウが必要となる。

その他の実証調査による地域や公園利用者への影響

【地域】


- ・本実証調査で対象とした農地の耕作が再開されたことで、隣地と共有する農業用水路等の共有地の管理分担・責任の明確化が必要となった。
- ・地域住民による、都市住民の農体験受け入れを目的とした、樹林地の整備（竹林・果樹園等）が行われ始めた。
- ・本実証調査の取組みを知った農地を所有していない地域住民が、個人の活動として、地域農家と連携した遊休地での耕作を行い始めた。

【公園利用者】

- ・より自由な品種や栽培方法を希望する、公園の農業体験農園利用者が、本実証調査を知ったことをきっかけとして、次年度に本物の農地で農体験に参加することとなった。

ここでは、以上の特徴にあわせて、実施農家、参加企業、参加者の意見や公園に求められる機能を再度整理することで、活用施策の効果的な地域への展開を検討する。

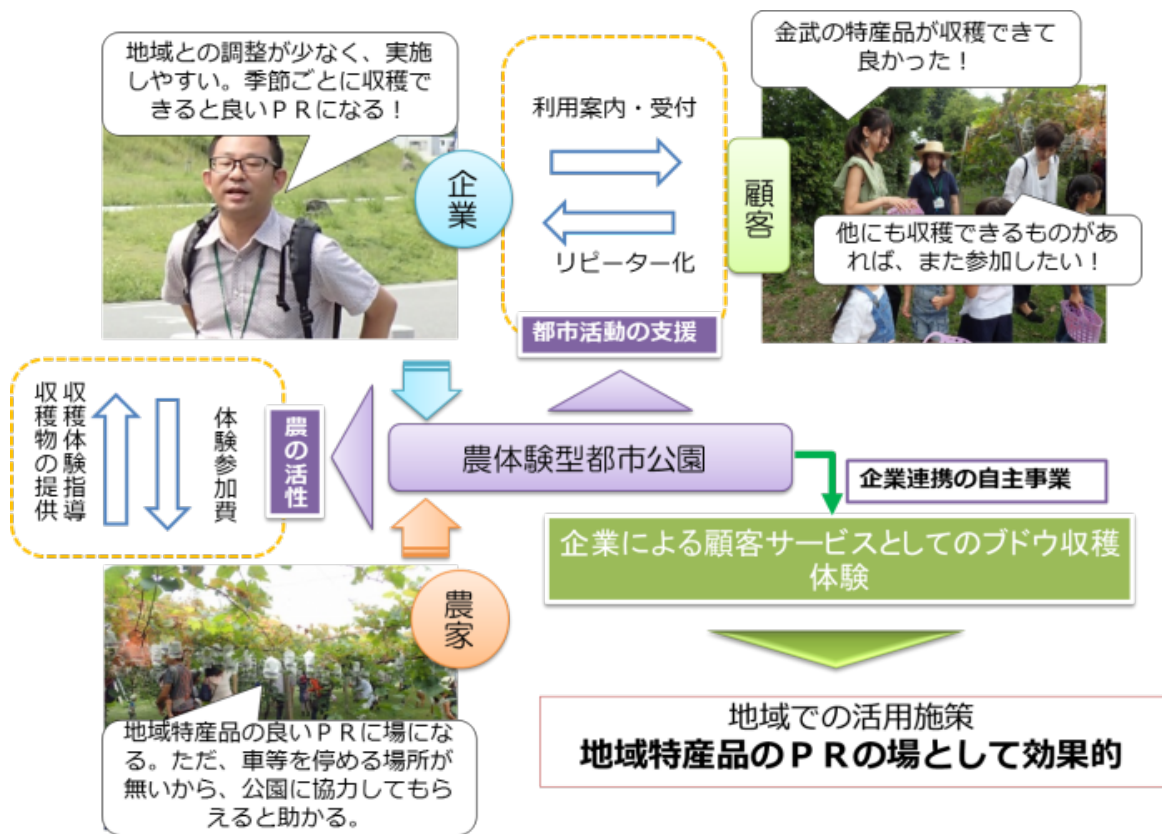
表 6-2 地域での活用施策の効果的展開

企業・団体	サービス系事業者	サービス系事業者	市民団体	複数企業の交流会	飲食店
実証モデル活用施策	①企業による顧客サービスとしてのブドウ収穫体験	②企業による顧客サービスとしての冬野菜栽培体験	③市民団体連携によるボランティア活動としての米づくり体験	④企業による異業種交流・福利厚生の取組みと連携した農業体験農園	⑤飲食店による商品開発・食材確保としての農業体験農園
単位活動量からみた特徴	・農家の活動は生産農家と差異はない	・都市住民の受け入れ容量は大きい一方で、農家の活動量も多く、 農家に対して相応の対価が求められる		・生産農業よりも活動量が少ない仕組みで都市住民の多くの受入れが可能であるが、より 専門的な野菜づくりの関する知識や指導力が必要	・企業の事業活動の一環として行われるため、福利厚生や余暇活動と比較すると、都市住民の参加が少なく、 指導農家によるサポートが必要
実施農家の意見	・案内や資材の準備は公園にお願いしたい ・PRや呼びかけを企業や公園にお願いしたい ・B級品も収穫してもらえて良かった ・管理作業にも参加の場があると助かる	・遊休農地の耕作を協力してもらえるととても助かる ・農業の喜びや苦勞を参加者に伝えられて嬉しい	・案内や資材の準備を公園が協力してもらえれば、指導は自分で行えるかもしれない ・生産用の米づくりや野菜づくりと比較して、 指導に作業手間がかかる	・農家だけでは、 専門的な指導ができない かもしれない ・公園の講習会と協力できてとても助かった ・指導に対するサポートがあれば、 今後も継続したい	
参加企業の意見	・参加者に喜ばれるので嬉しい ・地域調整がないので助かる、継続しやすい。 ・今後も1年の間に異なる作物で複数回実施したい	・収穫体験と比較して、参加者の満足度は高いようだった ・天候等による日程の変更等の、参加者への連絡案内の手間が多かった		・参加の仕組み等に工夫が必要なので、公園に提案・検討してもらえて良かった	・作った野菜で新しいメニュー開発が出来て楽しかった
				・参加者を通じて、 良い企業の交流の場 となった	
参加者の意見	・地域の特産品が収穫できて良かった。他に収穫できるものがあれば参加したい	・お米（野菜）の 育てる楽しみや学び がとても良い経験になった ・月に1回程度でいいので参加しやすい ・子どもたちも楽しそうで良かった		・自分たちで初めて栽培して、こんなに 多く収穫できる と思わなかった	・野菜づくりの知識が増えて、 今後の事業の可能性が広がりそう
				・野菜づくりは面白いことがわかった ・楽しく交流出来て良かった	
公園の拠点としての役割	・企業に対する 離合集散の場の提供 ・農家に対する 受付、案内の補助	・企業に対する 離合集散の場、資材の提供 ・農家に対する 受付、案内の補助		・企業に対する 離合集散の場、資材の提供、企画立案 ・農家に対する 受付、案内、専門的指導ノウハウの提供	
					
地域での効果的展開	地域特産品のPRの場として 効果的	食育や環境学習等の付加価値を付けた、遊休地等での定期栽培体験の運用が 効果的		農体験型都市公園と連携し、一般の市民に加え企業活動による遊休地等での農業体験農園が 効果的	

実証モデル①：企業による顧客サービスとしてのブドウ収穫体験

● **地域への展開：地域特産品のPRの場**

収穫のみの参加であるため、企業・顧客ともに参加しやすく、時期に合わせた地域の産物を対象とすることで、地域特産品PRの場としての活用が効果的となる。また、形や大きさが出荷品に適さないものでも、収穫できるため、市場に出せないB級品（質は変わらない）の消費によって、農家の収入増につながる可能性がある。また、多くの都市住民を受け入れ可能であるが、収穫に必要な資材を多く用意するためには、農体験型都市公園の協力が必要となる。また、他の体験と同様に、離合集散や案内受付の役割を農体験型都市公園が果たす必要がある。



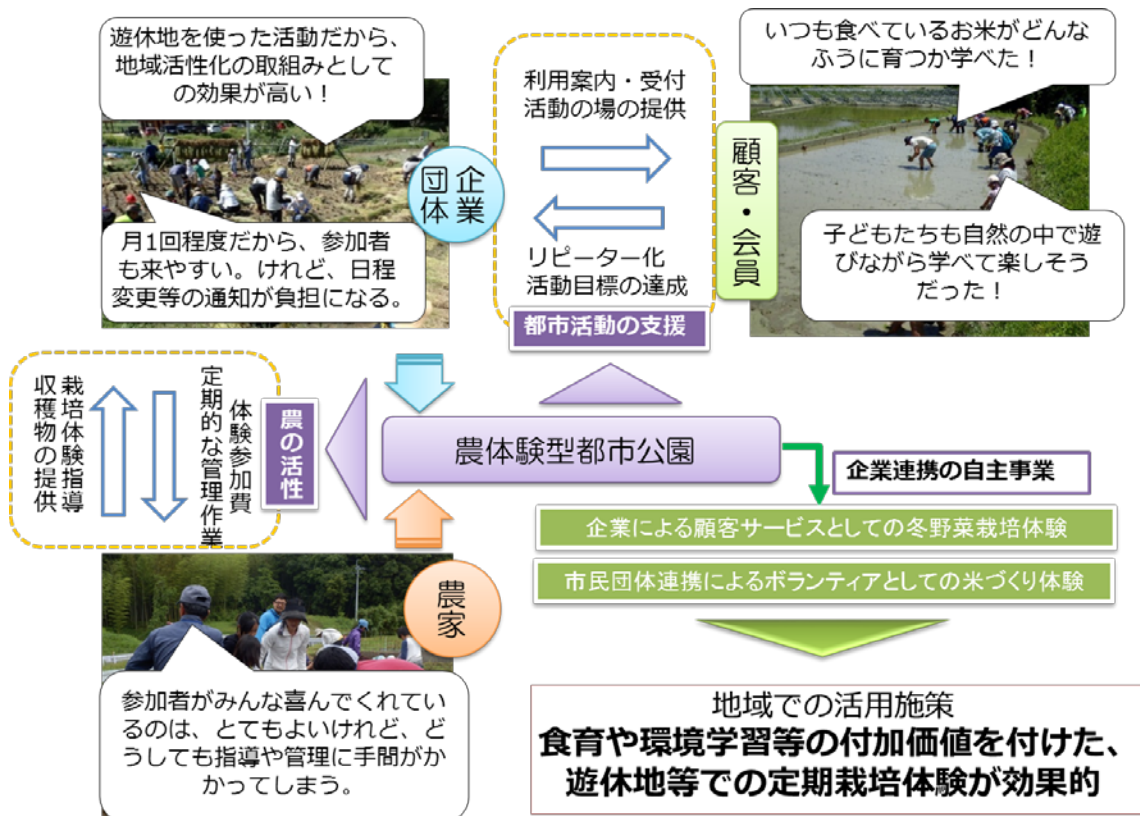
実証モデル②：企業による顧客サービスとしての冬野菜栽培体験

実証モデル③：市民団体連携によるボランティアとしての米づくり体験

●地域への展開：食育や環境学習等の付加価値を付けた、遊休地等での定期栽培体験

作物の栽培作業に加わることで、食育や環境学習の場としての効果が期待されるとともに、遊休地を実施場所とすることで、地域の農地保全に寄与できる。一方で、通常の耕作と比較すると、栽培指導のノウハウが必要となり、定期巡回の労務等を含めると、実施農家の負担が大きい。そのため、教育・学習機能の付加価値を付けた体験として、実施農家の作業負担に見合う対価が必要となる。また、活動日があらかじめ設定されているため、天候不順や生育状況による日程変更に関する案内通知等が企業の負担になる。

他の体験と同様に、離合集散や案内受付の役割を農体験型都市公園が果たした上で、栽培指導に関する協力も求められる。

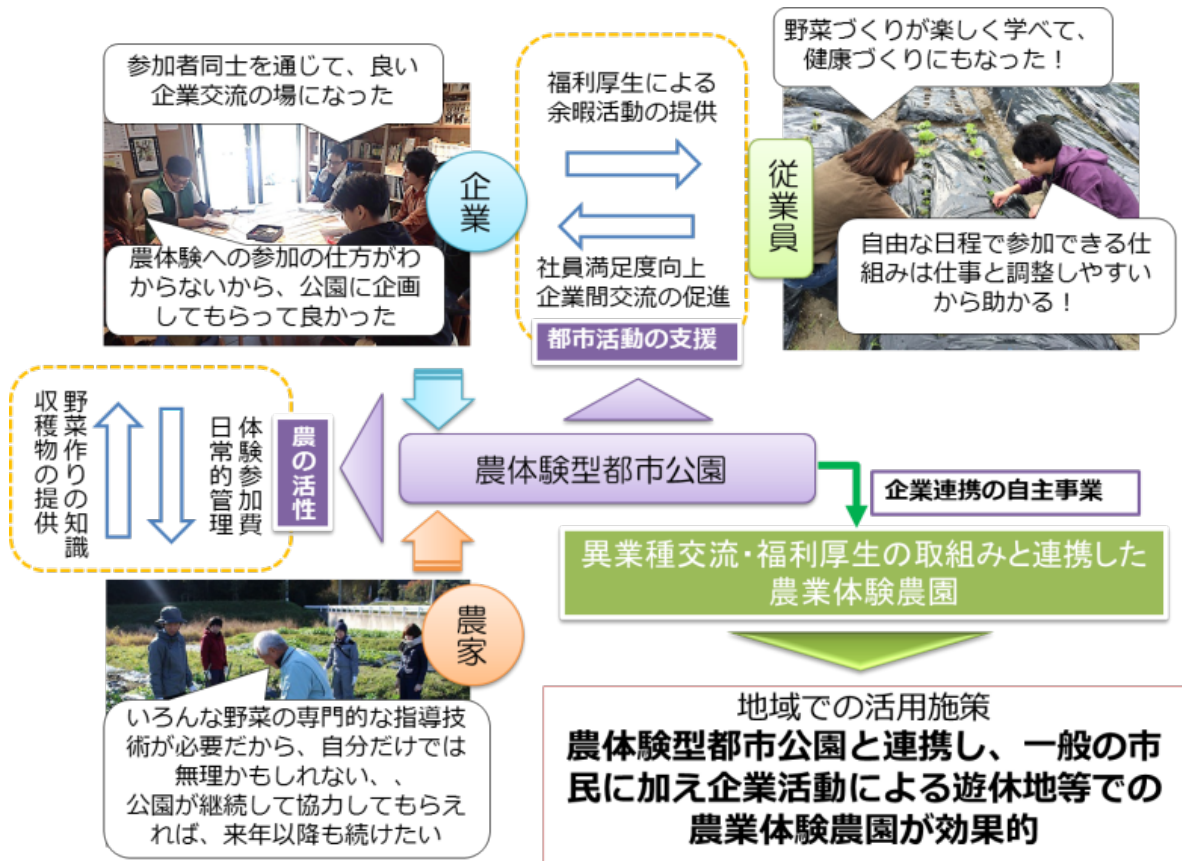


実証モデル④：企業による異業種交流・福利厚生との取り組みと連携した農業体験農園

実証モデル⑤：飲食店による商品開発・食材確保としての農業体験農園

● 地域への展開：農体験型都市公園と連携した、一般の市民・企業活動による遊休地等での農業体験農園

参加者が自由な日程で栽培管理を行うことから、作業可能な日時が限られる場合でも、参加しやすいため、様々な業種の企業が取り組みやすいと考えられる。また、土づくりからはじまる栽培管理を全て利用者責任で行うため、実施農家の役割は栽培指導に限られることから、生産農業と比較して、負担が少ないと考えられる。一方で、多品種の野菜に関する専門的な指導ノウハウが求められるため、農体験型都市公園の栽培指導員や、野菜づくりの講習会等と連携しなければ、実施農家（農地所有者）のみでの運営は難しい。本施策も遊休地での実施が可能であることから、地域の農地保全に寄与する施策となり得る。



2. 総括及び今後の課題

本実証調査では、農体験型都市公園が核となり、企業・市民参加型の農体験が地域へ波及していく5つの実証モデルを検証することができた。その調査のプロセス及び成果は、以下の特徴及び汎用性を有していると考える。

- ・本調査では、市街地縁辺部における農体験型都市公園が、公園レクリエーションとしての従来の枠組みを越え、参加型の農体験による都市・農村交流の活用施策を地域へ波及するために必要な拠点として、事業者や都市住民・地域等との高い連携可能性を有することが検証できた。
- ・さらに、本調査の成果は、これまで都市近郊の田園地域や中山間農業地域等に設置された農業公園や観光農園等の農体験型の拠点施設が、同様の連携による地域活性化を果たすための可能性を示唆し、都市住民が有するニーズ毎の連携の在り方として基盤となり得ると考えられる。

今後、金武校区における新たな営農形態の確立や、都市・農村交流による農業及び居住環境の向上の一助となる取組みとして発展していくため、以下のような調査が今後必要となると考える。

- ・金武校区の遊休地の現況、所有者の意向を調査し、利活用や持続性を踏まえた農体験の受け入れポテンシャルを分析する必要がある。
- ・企業の多様な参加形態の可能性を探るため、農体験への参加可能な企業との連携を継続拡大する必要がある。

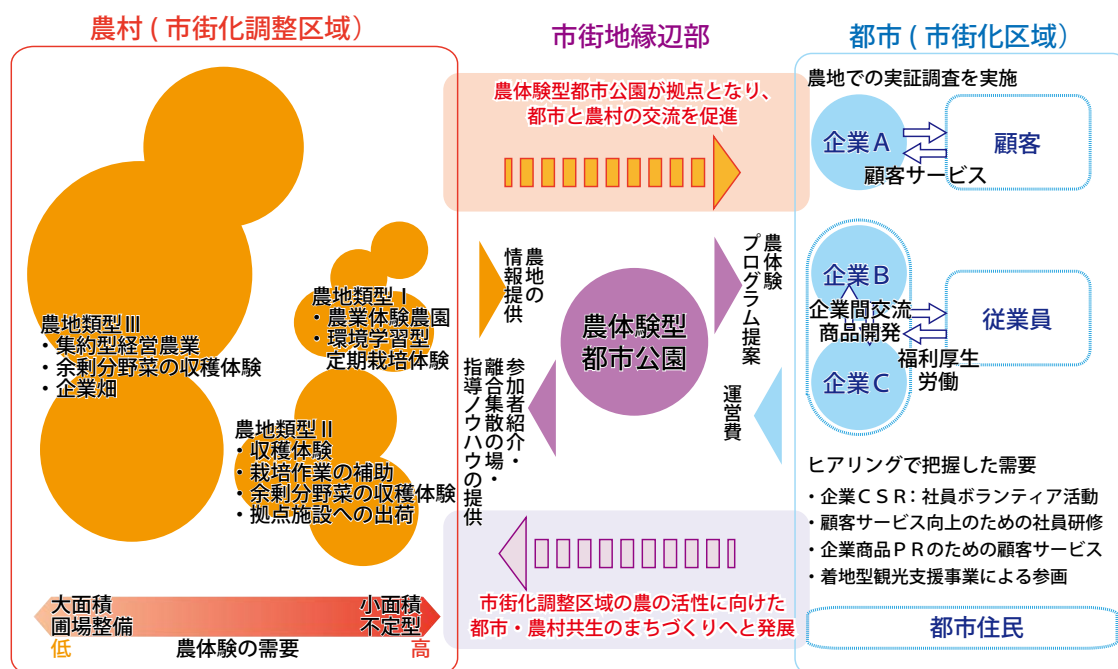


図 6-1 今後の展開イメージ

平成29年度 都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査
「農体験型都市公園を核とした市街地縁辺部における都市・農村共生まちづくりの実証調査」
(NPO 法人環境文化プロジェクト機構)

報 告 書

平成30年3月 作成

発 注 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

TEL : 03-5253-8111 FAX : 03-5253-1593

受 注 特定非営利活動法人環境文化プロジェクト機構

〒812-0028 福岡県福岡市博多区須崎町12番8号

TEL : 092-271-3673 FAX : 092-271-3663
